

映像合成装置

LM-90-04LE

LM-90-10

LINE MIXER

LM-90HD/SD アプリケーション

取扱説明書

このたびは、ビデオトロン製品をお買い上げいただきありがとうございました。
安全に正しくお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この製品を安全にご使用いただくために



警告

誤った取扱いをすると死亡または重傷、火災など重大な結果を招く恐れがあります。

1) 電源プラグ、コードは

- ・定格で定められた電源以外は使用しないでください。
- ・差込みは確実に。ほこりの付着やゆるみは危険です。
- ・濡れた手でプラグの抜き差しを行わないでください。
- ・抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。コードを持って引っ張らないでください。
- ・電源コードは巻かずに、伸ばして使用してください。
- ・電源コードの上に重い物を載せないでください。
- ・機械の取り外しや清掃時等は必ず機械の電源スイッチを OFF にし、電源プラグを抜いてから行ってください。

2) 本体が熱くなったら、焦げ臭いにおいがしたら

- ・すぐに電源スイッチを切ってください。電源スイッチのない機械の場合は、電源プラグを抜くなどして電源の供給を停止してください。機械の保護回路により電源が切れた場合、あるいはブザー等による警報がある場合にもすぐに電源スイッチを切るか、電源プラグを抜いてください。
- ・空調設備を確認してください。
- ・しばらくの間機械に触れないでください。冷却ファンの停止などにより異常発熱している場合があります。
- ・機械の通風孔をふさぐような設置をしないでください。熱がこもり異常発熱の原因になります。
- ・消火器の設置をお勧めします。緊急の場合に取り扱えるようにしてください。

3) 修理等は、弊社サービスにお任せください

- ・感電・故障・発火・異常発熱などの原因になりますので、弊社サービスマン以外は分解・修理などを行わないでください。
- ・故障の場合は、弊社 サポートセンターへご連絡ください。

4) その他

- ・長期に渡ってご使用にならない時は電源スイッチを切り、安全のため電源プラグを抜いてください。
- ・質量のある機械は一人で持たず、複数人でしっかりと持ってください。転倒や機械の落下によりけがの原因になります。
- ・冷却ファンが回っている時はファンに触れないでください。ファン交換などは必ず電源を切り、停止していることを確かめてから行ってください。
- ・車載して使用する場合は、より確実に固定してください。転倒し、けがの原因になります。
- ・ラックマウントおよびラックの固定はしっかりと行ってください。地震などの災害時に危険です。
- ・機械内部に異物が入らないようにしてください。感電・故障・発火の原因になります。



注意

誤った取扱いをすると機械や財産の損害など重大な結果を招く恐れがあります。

1) 機械の持ち運びに注意してください

- ・落下等による衝撃は機械の故障の原因になります。
また、足元に落としたりしますとけがの原因になります。

2) 外部記憶メディア対応の製品では

- ・規格に合わないメディアの使用はドライブ・コネクタの故障の原因になります。
マニュアルに記載されている規格の製品をご使用ください。
- ・強い磁場がかかる場所に置いたり近づけたりしないでください。内部データに影響を及ぼす場合があります。
- ・湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。故障の原因になります。
- ・大切なデータはバックアップを取ることをおすすめします。

● 定期的なお手入れをおすすめします

- ・ほこりや異物等の浸入により接触不良や部品の故障が発生します。
- ・お手入れの際は必ず電源を切り、電源プラグを抜いてから行ってください。
また、電解コンデンサー、バッテリー他、長期使用劣化部品等は事故の原因につながります。
安心してご使用していただくために定期的な(5年に一度)オーバーホール点検をおすすめします。
期間、費用等につきましては弊社 サポートセンターまでお問い合わせください。

※上記現象以外でも故障かなと思われた場合やご不明な点がありましたら、弊社 サポートセンターまでご連絡ください。

保証規定

・本製品の保証期間は、お買い上げ日より1年間とさせていただきます。なお、保証期間内であっても次の項目に該当する場合は有償修理となります。

- (1) ご利用者様での、輸送、移動、落下時に生じた製品破損、損傷、不具合。
- (2) 適切でない取り扱いにより生じた製品破損、損傷、不具合。
- (3) 火災、天災、設備異常、供給電圧の異常、不適切な信号入力などにより生じた破損、損傷、不具合。
- (4) 当社製品以外の機器が起因して当社製品に生じた破損、損傷、不具合。
- (5) 当社以外で修理、調整、改造が行われている場合、またその結果生じた破損、損傷、不具合。

・修理責任免責事項について

当社の製品におきまして、有償無償期間に関わらず出来る限りご依頼に沿える修理対応を旨としておりますが、以下の項目に該当する場合はやむをえず修理対応をお断りさせていただく場合がございます。

- (1) 生産終了より7年以上経過した製品、及び製造から10年以上経過し、機器の信頼性が著しく低下した製品。
- (2) 交換の必要な保守部品が製造中止により入手不可能となり在庫もない場合。
- (3) 修理費の総額が製品価格を上回る場合。
- (4) 落雷、火災、水害、冠水、天災などによる破損、損傷で、修理後の恒久的な信頼性を保証出来ない場合。

・アプリケーションソフトについて

- (1) 製品に付属しているアプリケーションは、上記規定に準じます。
- (2) アプリケーション単体で販売している場合は、販売終了より3年経過した時点で、サポートを終了いたします。

何卒、ご理解の程よろしく願いいたします。

フォントの使用についてのお願い

フォントの使用については、フォントメーカーと使用契約を結んでください。

本製品でお使いになるフォントや本製品に映像信号として入力するフォントに関しては、フォントメーカーと使用契約を結んだフォントをご使用願います。フォントおよび本製品で編集あるいは制作された制作物の著作権に関し、当社は一切の責任を負いません。

本書に記載している商標

Microsoft®、Windows®、および Windows 8.1®は、Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。その他本書中に記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。

..... 目次

この製品を安全にご使用いただくために.....	I
保証規定.....	III
フォントの使用についてのお願い.....	IV
本書に記載している商標.....	IV
1. 概説.....	1
2. 特長.....	1
3. 構成.....	2
1. 基本構成.....	2
2. システム構成.....	2
3. システム条件.....	2
4. インストール/アンインストール.....	3
1. アプリケーションCD.....	3
2. LM-90HD/SD アプリケーションのインストール.....	3
3. LM-90HD/SD アプリケーションのアンインストール.....	7
5. 起動画面とメインウィンドウ.....	9
1. LM-90APPソフトウェアの起動.....	9
2. メインウィンドウ.....	10
6. ダイアログとツールバーのメニュー.....	12
1. メニューバー.....	12
2. ツールバー.....	13
3. メッセージバー.....	13
4. 状態表示.....	13
5. テロップ登録.....	14
6. 本体パラメーター設定.....	23
7. 本体操作.....	34
8. プレビュー.....	35
9. ステータスバー.....	35
10. バージョン情報.....	36
7. 基本操作.....	37
1. 実行対象選択ダイアログ.....	37
2. ネットワーク設定.....	40
3. アプリケーション設定.....	44
4. メンテナンス.....	45
5. テロップ登録メニュー.....	47
6. 静止面設定.....	50
7. 音声設定.....	52
8. LM-90-10本体情報インポート.....	54
9. LM-90-10本体情報エクスポート.....	54

8. ショートカット.....	55
9. 工場出荷時設定.....	56
10. ユーザーリソース.....	57
11. トラブルシューティング.....	58
12. 索引.....	60

1. 概 説

本製品は、ネットワーク上のPCからLM-90HD/SD(LM-90-03※1)の表示パラメーター設定や表示文字登録、送出管理を行う為のアプリケーションです。

LM-90-04LEはLM-90-03に対して4つまでのテロップデータを本体に登録する事ができます。

LM-90-10は本体メニュー同様に各プリセットやDSK、インターフェース、システムのパラメーターを設定する事が出来、本体フロントパネルと同等の操作及びステータス表示をする事も出来ます。

2. 特 長

[LM-90-04LE]

- ロールユニット(LM-90-03)に対して送出スタイル及び文章の作成/登録をする事が可能※1

[LM-90-10]

- 各プリセットのパラメーターを本体メニュー同様に変更することが可能※2
- 本体フロントパネルと同等の設定操作及びステータス表示が可能※2
- イメージファイル及びWAVファイルを本体に対して入出力することが可能※3
- 選択プリセットをPC上でプレビュー表示可能※4

※1 LM-90-03にはLM-90-04 Limited Edition(以降 LE版)が標準ソフトとして付属します。

※2 本体とは一部表示方法や設定できる項目に違いがあります。

※3 イメージファイルは入力のみです。

※4 簡易的な表示機能なので本体とは完全に一致しない場合があります。

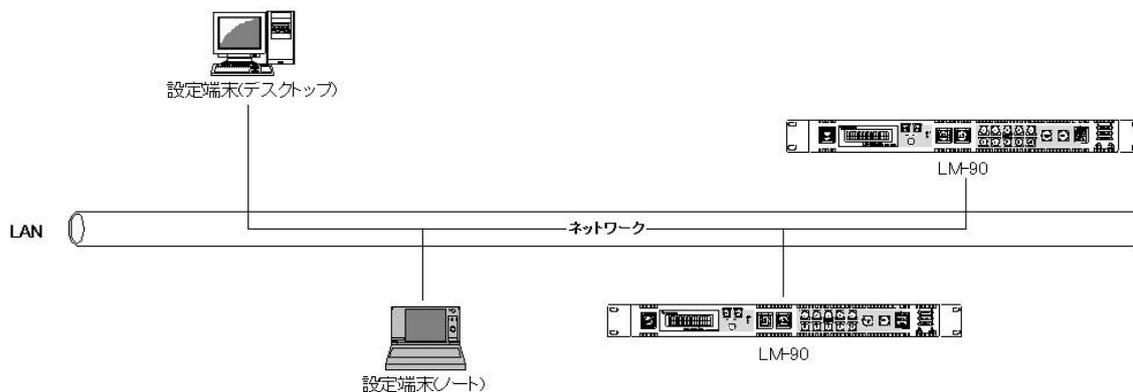
3. 構成

1. 基本構成

番号	品名	型名・規格	数量	備考
1	アプリケーションCD	LM-90HD/SD アプリケーション CD-ROM	1	・LM-90HD/SDアプリケーション ・HASPDライバ ・取扱説明書(PDF版)
2	プロテクトキー	HASP-HL	1	・LE版の場合は付属しません

※取扱説明書はアプリケーションCDのDocumentフォルダー内にPDFファイルで格納されています。

2. システム構成



システム構成図

3. システム条件

- ・OS Windows® 8.1 Pro 32/64bit、
Windows® 10 Pro 32/64bit※1
- ・CPU Intel CPU 2コア以上で1.5GHz以上
- ・メモリ 2GB以上
- ・ディスプレイ XGA(1024×768ピクセル)以上
- ・カラー 32ビットカラーモード(必須)
- ・ハードディスク又はSSD 500MB以上の空き領域
- ・ネットワーク(LAN) 100BASE以上

※1 Windows® 10 64bit及びWindows® 8.1 64bitは32bitモードでの動作になります

4. インストール/アンインストール

※インストール/アンインストールは、管理者権限でログインして行ってください。

1. アプリケーションCD

アプリケーション CD 内には、以下のフォルダーがあります。

APP	LM-90HD/SD アプリケーションのインストーラーが格納されています。
Document	LM-90HD/SD アプリケーション取扱説明書(PDF 版)が格納されています。
Driver	各種必要なドライバーが格納されています。

2. LM-90HD/SD アプリケーションのインストール

LM-90HD/SD アプリケーションのインストールは、以下の手順で行います。

インストールの途中でシリアルNo.を入力する項目がある為、CDのラベル上に印刷されているシリアルNo.を控えておいて下さい。

ただし、複数のシリアルNo.が記載されている場合はインストール時に入力するシリアルNo.は1つの為、一番上に記載されているシリアルNo.を控えておいて下さい。

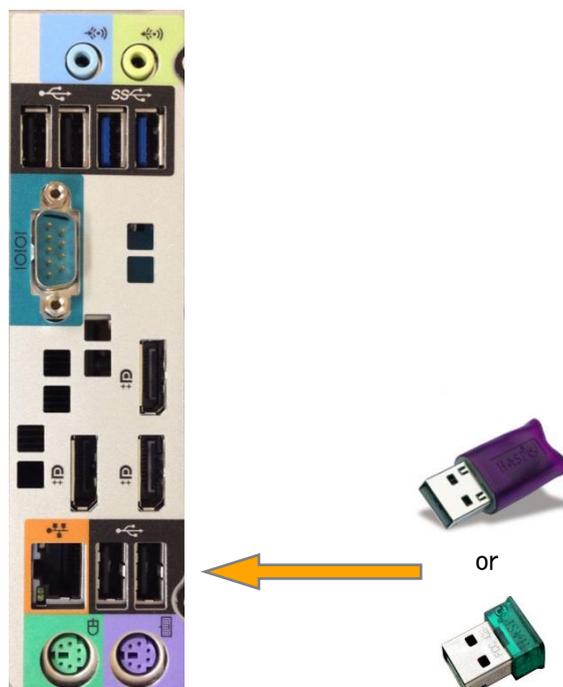
※LE版の場合はプロテクトキーの設置及び、プロテクトキー(HASP)ドライバーのインストールは必要有りません。

(1)プロテクトキーの設置

LM-90HD/SD アプリケーションを起動するにはプロテクトキーが必要です。

アプリケーションを起動するパソコンのUSBポートにプロテクトキーを接続して下さい。

※LE版では必要有りません



USB ポート/プロテクトキー

※出荷時期により HASP の形状は違います

(2)プロテクトキー(HASP)ドライバーのインストール

※LE版では必要有りません

1)LM-90HD/SDアプリケーションCDをドライブに挿入します。

AutoRun機能が有効の場合はアプリケーションのインストーラーが自動的に起動してしまいますがここではキャンセルを実行します。

2)エクスプローラー(コンピューター)等から挿入したドライブ上で右クリックして「開く」を選択します。

3)「Driver」フォルダー内の「HAPS」フォルダーを開き、中にある「HASPUserSetup.exe」をダブルクリックします。拡張子の表示がOFFの場合、ファイル名は「HASPUserSetup」になります。

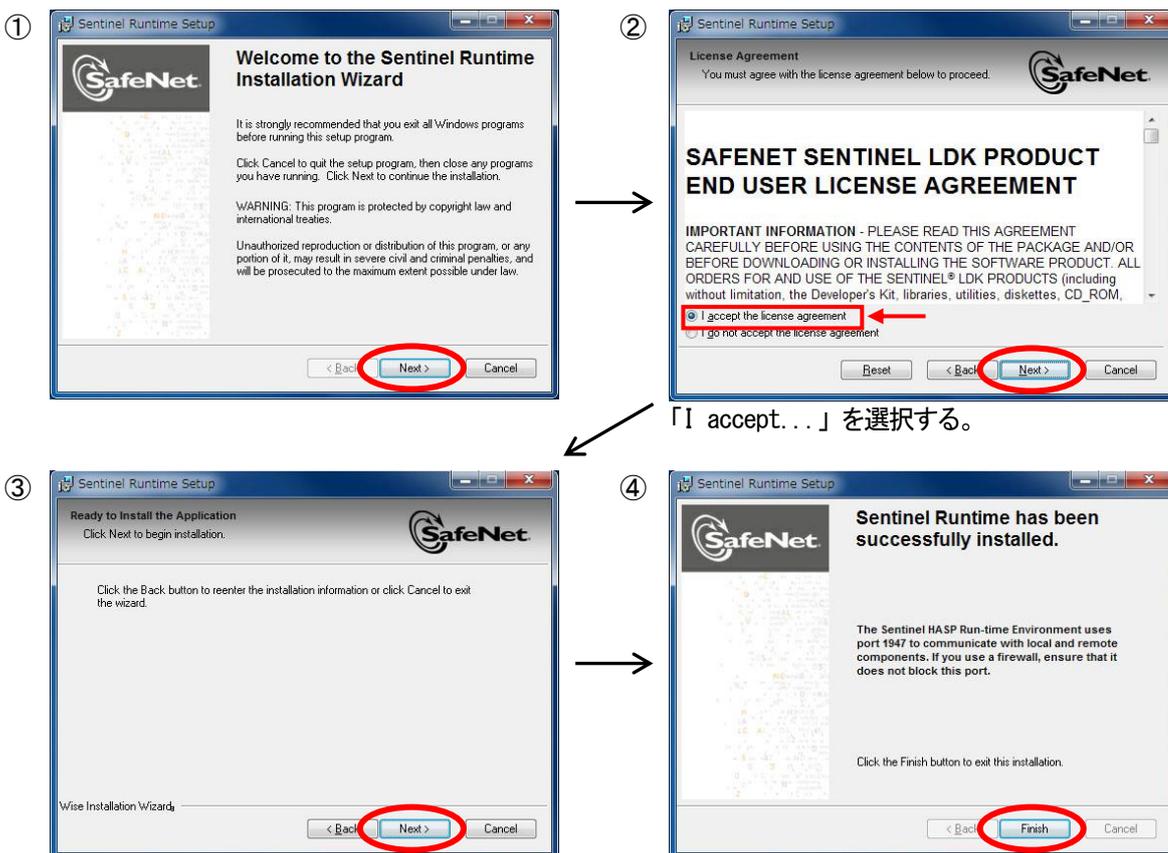


「HASPUserSetup.exe」のアイコン

4)画面上にインストーラーのダイアログが表示されます。

各項目を確認しながら印のついた場所をクリックしてインストールを進めてください。

また、ユーザーアカウント制御のダイアログが表示された場合は「はい」を選択して下さい。



プロテクトキードライバーのインストール手順

5) 以上でプロテクトキーのインストールは完了です。

(3) LM-90HD/SD アプリケーションのインストール

1) LM-90HD/SD アプリケーションCDをドライブに挿入します。

AutoRun機能が有効の場合はインストーラーが自動的に起動する為、4)の項目に進みます。

2) エクスプローラー(コンピューター)等から挿入したドライブ上で右クリックして「開く」を選択します。

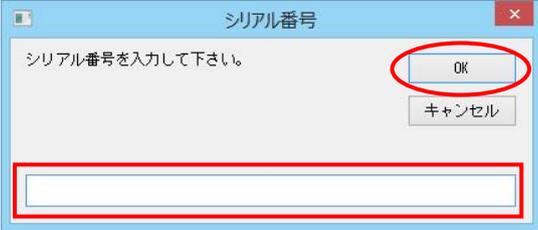
3) 「App」フォルダーを開き、「setup.exe」ファイルをダブルクリックで起動します。

拡張子の表示がOFFの場合、ファイル名は「setup」になります。



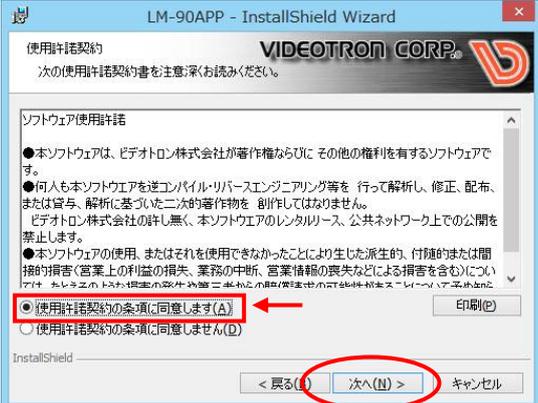
4) 画面上にインストーラーのダイアログが表示されます。

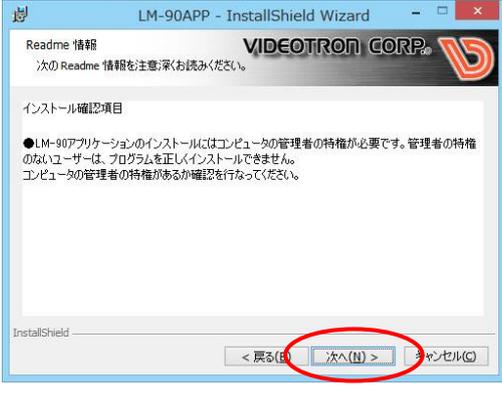
各項目を確認しながら印のついた場所をクリックしてインストールを進めてください。

① 

② 

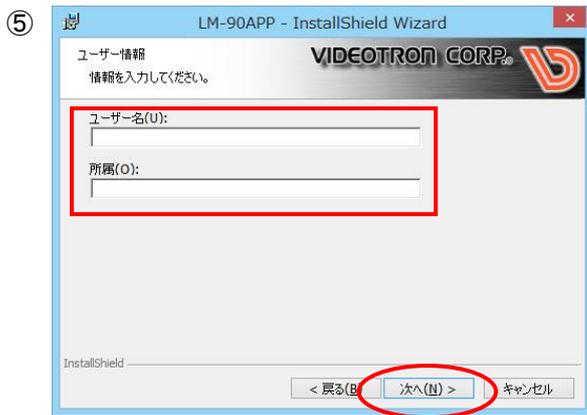
CDのラベル上に印刷されている8桁のシリアル No.を入力して「OK」を選択して下さい。
3 回連続してシリアル番号を間違えるとインストール作業を中止します。

③ 

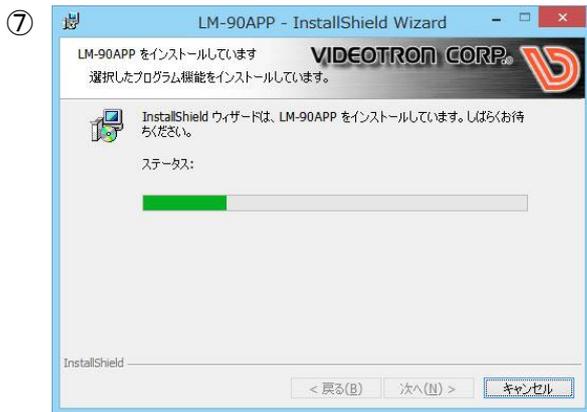
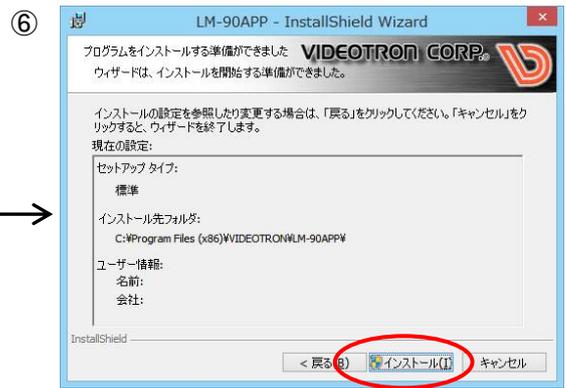
④ 

「同意する」を選択する。

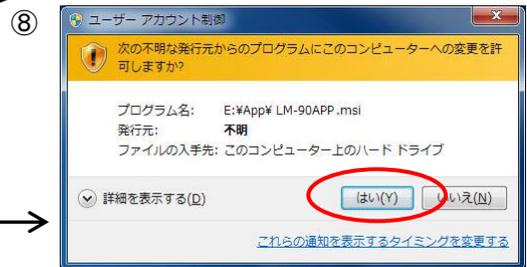
次のページ⑤へ



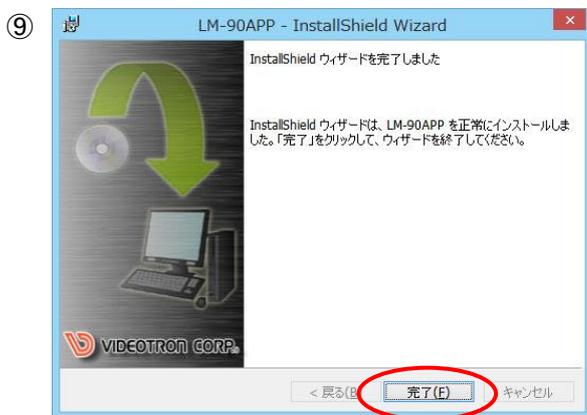
必要に応じてユーザー名及び所属を入力して下さい。



インストールの進行状況が表示されます。



ユーザーアカウント制御が有効の場合
⑦のダイアログ表示後しばらくすると、
上記のダイアログが表示されます。
インストールを続ける場合は「はい」を選択して
下さい。



アプリケーションのインストール手順

5)以上でアプリケーションのインストールは完了です。

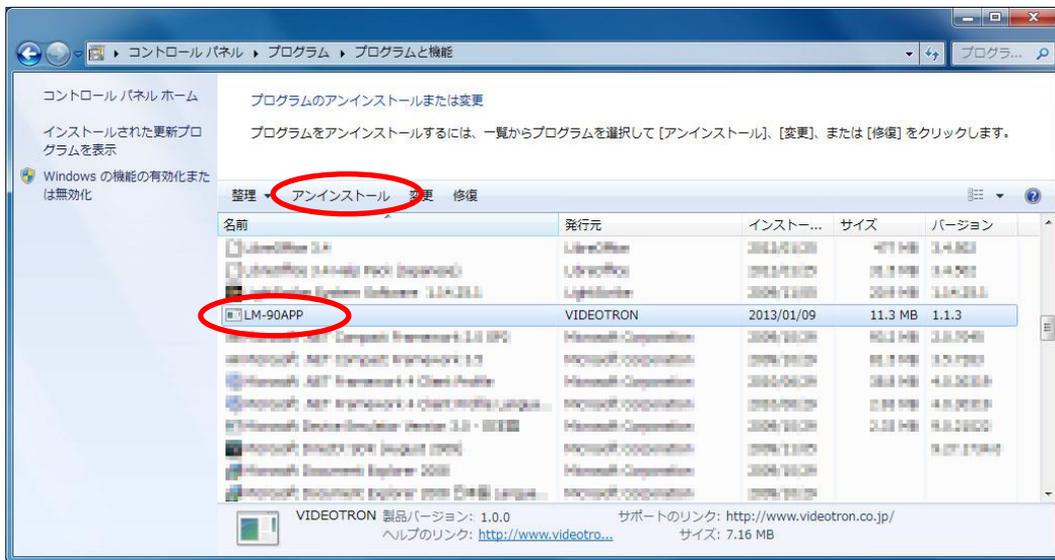
3. LM-90HD/SD アプリケーションのアンインストール

LM-90HD/SD アプリケーションのアンインストールは、以下の手順で行います。

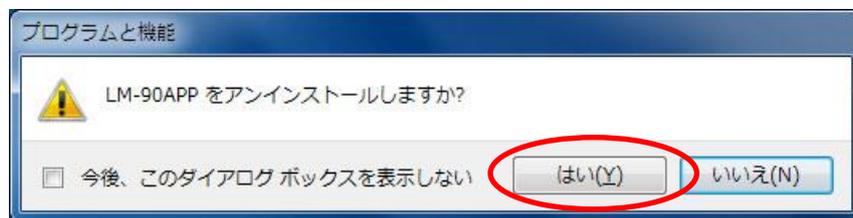
(1) LM-90HD/SDアプリケーションのアンインストール

1)[スタート] → [コントロールパネル] → [プログラム] → [プログラムと機能]を選択します。

2)[プログラムのアンインストールまたは変更]リストから[LM-90APP]を選択し、[アンインストール]を選択します。

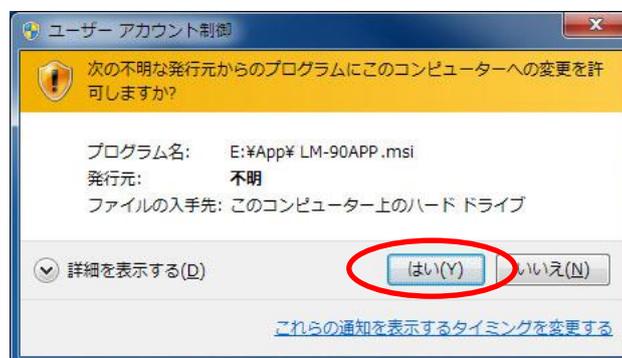


3)アンインストールの確認が出たら[はい]を選択します。



4)ユーザーアカウント制御が有効の場合、以下のダイアログがしばらくすると表示されます。

アンインストールを続ける場合は「はい」を選択して下さい。



5)以上でアプリケーションのアンインストールは完了です。

5. 起動画面とメインウィンドウ

1. LM-90APPソフトウェアの起動

デスクトップ、またはスタートメニューの[スタート]–[すべてのプログラム]–

[Videotronアプリケーション]以下にある[LM-90APP]のアイコンをダブルクリックして下さい。

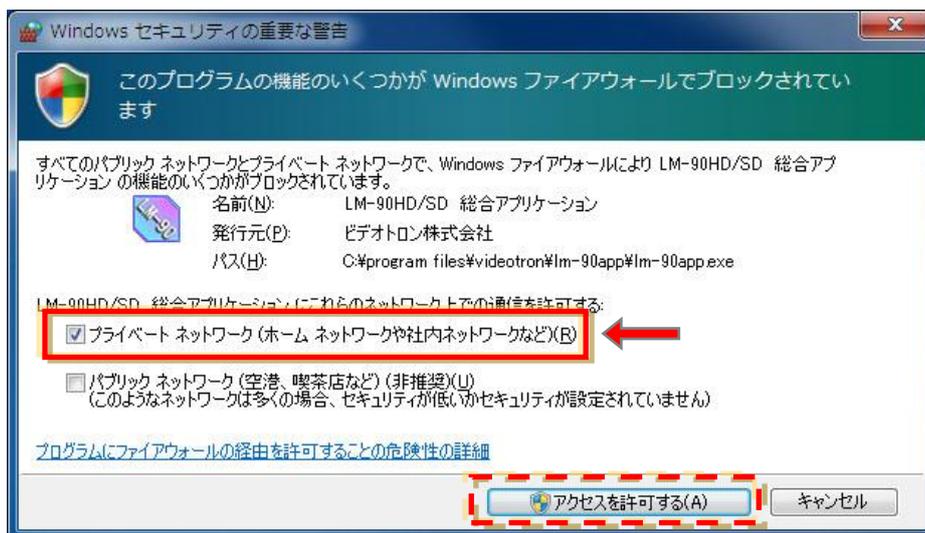


※注意

アプリケーションが初めてLM-90HD/SD(本体)に接続する時やファイアウォールの設定を変更した時に以下のウィンドウが表示されることがあります。

このウィンドウが表示された場合、プライベートネットワークにチェックを入れた状態で[アクセスを許可する]のボタンを選択して下さい。

※パブリックネットワーク側のチェックを入れておいても問題ありません。

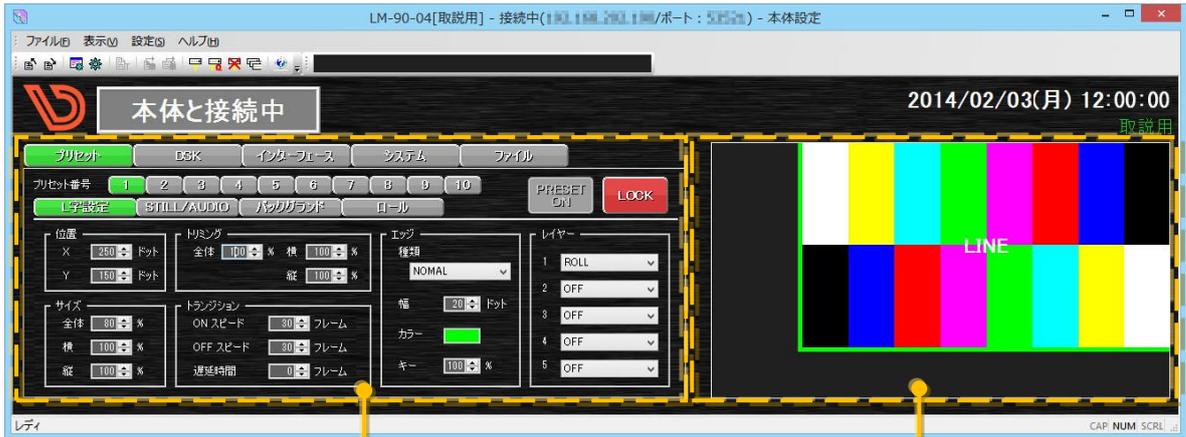


2. メインウィンドウ

・LM-90-04LE時



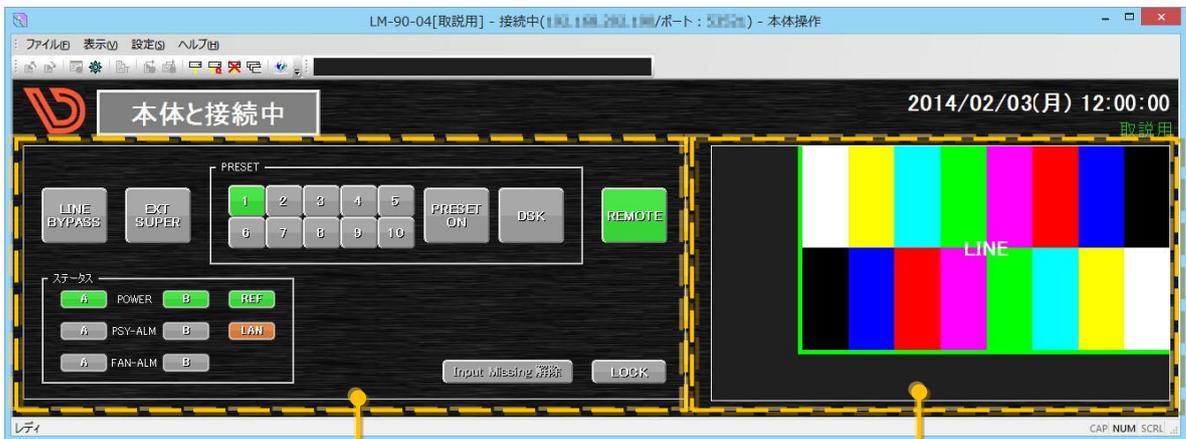
・LM-90-10の本体パラメーター設定時



(6) パラメーター設定(P-23)

(8) プレビュー(P-35)

・LM-90-10の本体操作時



(7) 本体操作 P-34)

(8) プレビュー(P-35)

6. ダイアログとツールバーのメニュー

1.メニューバー

以下の様なメニューがあり、それぞれプルダウンメニューがあります。



①ファイル

メニュー名	メニュー内容
インポート	保存されているイベントデータまたはテロップ情報データ、本体パラメーターを読み込みます。(詳細はP-49 および P-54)
エクスポート	登録イベント一覧で選択されているイベントまたは選択されているテロップ情報、本体パラメーターを保存します。(詳細はP-49およびP-54)
アプリケーションログの格納場所を開く	ログが格納されている場所をエクスプローラで開きます。ログファイルは1MB単位で保存され約1ヶ月分保持されます。また、ファイル名はYYMMDD_XX.logの形になっています。YY: 西暦の下二桁、MM: 月、DD: 日、XX: ログのカウンター
アプリケーションの終了	アプリケーションを終了します。

②表示

メニュー名	メニュー内容
ツールバーとドッキングウィンドウ	表示するツールバーをカスタマイズすることが出来ます。
ステータスバー	ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。
メッセージバー	メッセージバーの表示/非表示を切り替えます。

③設定

メニュー名	メニュー内容
アプリケーションタイプ※	アプリケーションの実行タイプの設定ができます。
ネットワーク	LM-90HD/SD(LM-90-03)に接続する為の各種設定が出来ます。(詳細はP-40) サブメニューがあり接続/クイック接続/切断/接続先設定があります。
アプリケーション設定※	アプリケーションのパラメーター設定が出来ます。
メンテナンス	LM-90HD/SD(本体のログ取得、フォント登録、本体バージョンアップ)が出来ます。(詳細はP-19)
テンプレート設定※	送出時に使用する各種設定パラメーターの設定が出来ます。
自動イベント登録オプション※	自動イベント登録オプションの設定が出来ます。
メールオプション※	メールオプションの設定が出来ます。

※LE版及びネットワークコントローラー(LM-90-10)では選択できません

④ヘルプ … アプリケーションのバージョン情報を表示するメニューになります。

メニュー名	メニュー内容
バージョン情報	アプリケーション及び本体のバージョンを表示します。(詳細は P-36)

2. ツールバー

デフォルト設定ではメインメニュー内の各メニューのショートカットがあります。
表示されているアイコンは各メニューの左側にあるものと同じになります。



- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ①インポート(詳細はP-49 および P-54) | ⑦メールオプション※2 |
| ②エクスポート(詳細はP-49およびP-54) | ⑧ネットワーク - 接続(詳細はP-40) |
| ③アプリケーション設定(詳細はP-44)※1 | ⑨ネットワーク - クイック接続(詳細はP-40) |
| ④メンテナンス(詳細はP-19) | ⑩ネットワーク - 切断(詳細はP-41) |
| ⑤テンプレート設定※2 | ⑪ネットワーク - 接続作設定(詳細はP-41) |
| ⑥自動イベント登録オプション※2 | ⑫バージョン情報(詳細はP-36) |

※1LE版及では選択できません

※2LE版及びネットワークコントローラ(LM-90-10)では選択できません

3. メッセージバー

アプリケーションのパラメーター変更及び状態通知が必要な場合にメッセージが表示されます。



4. 状態表示

メインウィンドウの上部分には現在の放送(接続)状態が表示されます。

状態表示は大きく本体接続時と未接続時の2つが有り、それぞれは以下のように表示されます。

1)本体接続中 ※1



2)本体未接続

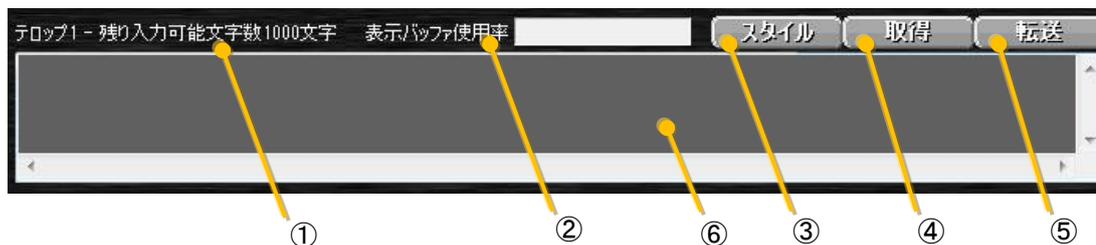


※1 本体と接続中でも本体側の設定状態が強制停止中の場合、文字がグレー表示になります。

5.テロップ登録

LM-90-03本体にテロップを登録する為の操作ができます。

テロップは最大4つまで登録する事ができ、各プリセットに関連付けて送出することができます。



テロップ登録画面

- | | |
|------------|--|
| ①残り入力可能文字数 | … 入力できる残りの文字数が表示されます。 |
| ②表示バッファ使用率 | … スタイル設定でMOTION TELOPを設定している場合に表示されます。
16面あるページのどの程度バッファを使用しているかバーで表示されます。
このバーが最大まで行き表示が赤色になっている場合、入力した文字が
すべて表示されない場合があります。※1 |
| ③スタイル | … テロップのタイプ及びトランジション/位置/文字スタイルを設定します。 |
| ④取得 | … 本体に設定されているテロップ情報を取得します。 |
| ⑤転送 | … 現在設定されているテロップ情報を本体に転送します。 |
| ⑥テロップ入力 | … 送出するテロップの文字情報を入力します。 |

※1/バッファの使用率は文字を箱送りにした場合の文字サイズで計算されているため、詰め送りにしている場合は、バーが赤色になっていてもすべてが表示される場合があります。

・スタイルの設定

スタイル設定では動作タイプとしてモーションテロップまたは、プレートテロップから指定することができます。

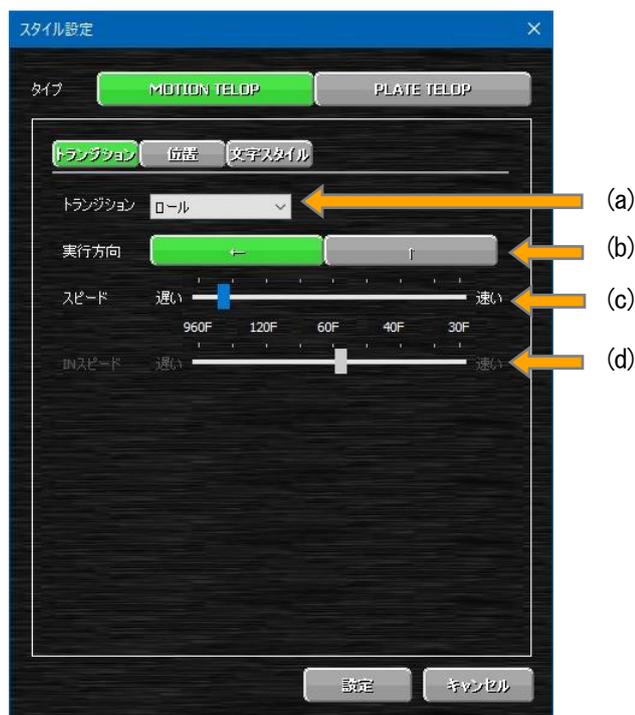
設定項目は動作タイプに合わせてそれぞれトランジション/位置/文字スタイルの3つが有ります。

※モーションテロップに設定された場合、メイン画面上に表示バッファ使用率のバーが表示されます。

・MOTION TELOP(M-TELOP)を選択している場合

a)トランジション

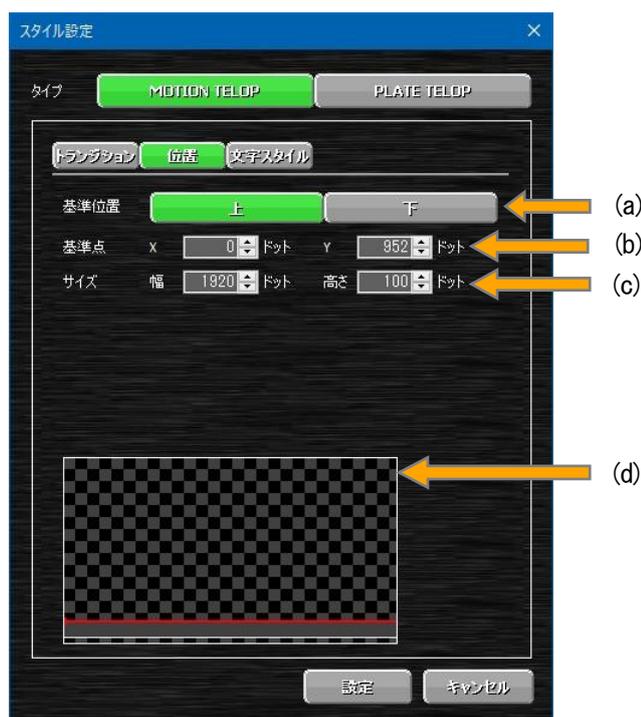
2段目にある[トランジション]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称	内容
(a)トランジション	このテロップに切り替わる時のトランジションを指定します。 MOTION TELOPの場合、設定はロール固定となります。
(b)実行方向	トランジションの実行方向を上又は左から指定します。
(c)OUTスピード(スピード)	ロールの実行スピードの指定をします。 スピードは32段階の中から指定することが出来ます。
(d)INスピード	INスピードを指定します。 ※この設定項目は現在対応するトランジションが無いため設定する事はできません

b)位置

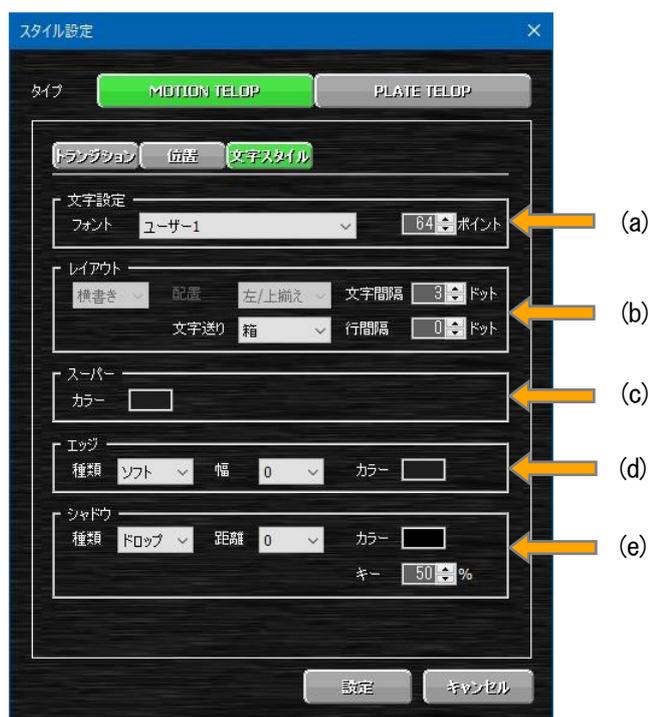
2段目にある[位置]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



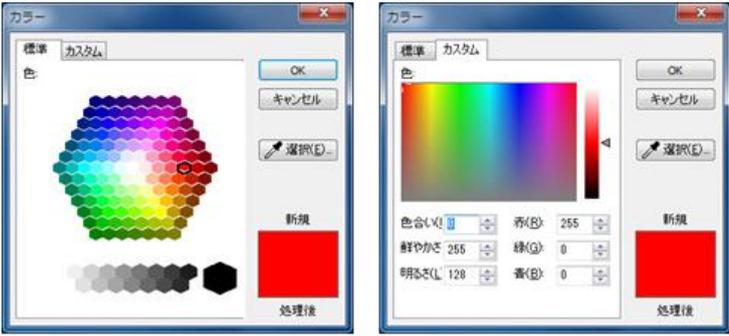
設定名称	内容
(a)基準位置	表示エリアを設定する時の基準点を指定します。 この基準位置はトランジションのロール方向によって設定項目が変化します。 設定項目は上下又は左右のどちらかの設定になります。 例えば横ロールで下を基準位置とすると表示エリアが次項の基準点から右上方向になります。
(b)基準点	表示エリアの基準点になるX/Y座標を指定します。 プレビュー上には赤ドットで表示されます。 また、基準となる辺部分が赤ラインで表示されます。
(c)サイズ	表示エリアの縦横のサイズを指定します。 プレビュー上には基準点から白枠で表示されます。 表示サイズが文字サイズ以下になっても必ず1行(列)は表示されます。
(d)プレビュー	指定された各パラメーター結果をプレビュー表示します。 白枠で囲われた内側が表示エリアになります。

c)文字スタイル

2段目にある[文字スタイル]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称		内容
(a)文字設定	フォント	フォントは角ゴシとユーザー設定の2書体の合計3書体から指定することが可能です。 ただし、ユーザー設定の2書体が指定されていても本体にフォントが登録されていない場合、角ゴシフォントでの送出になります。
	サイズ	表示する文字の大きさを指定します。 設定範囲は10～200ポイントになります。
(b)レイアウト	方向	文字の描画方向を横書き/縦書きから指定します。 MOTION TELOPの場合、横ロールは横書き、縦ロールは縦書きに固定されています。
	配置	表示エリア内の文字配置を指定します。 MOTION TELOPの場合、指定できません。
	文字送り	文字の送りを詰め/箱から指定します。 詰め …… 文字のバウンディングボックス(外形)に合わせ文字を送っていきます。文字毎の大きさにより変化します。 箱 …… 文字のサイズに合わせて文字を送っていきます。文字毎の送り幅は固定幅になります
	文字間隔	文字と文字の間隔をドット単位で指定します。 設定範囲は-50～50ドットになります。
	行間隔	各行の間隔をドット単位で指定します。 設定範囲は-20～20ドットになります。
次ページに続く		

(c)スーパー	カラー	<p>スーパー色を指定します。 カラー項目の部分をクリックすることで以下のカラー設定ダイアログが表示されます。</p> 
(d)エッジ	種類	<p>エッジの種類をハード、ソフトから指定します。 ハード … エッジ全体が塗りつぶされます。 ソフト … エッジの内側から外にかけてレベルが変化します。</p>
	幅	<p>エッジ幅を0～5の範囲で指定します。 設定を0にする事でエッジの表示がOFFになります。</p>
	カラー	<p>エッジ色を指定します。※設定方法はスーパー色と同じです</p>
(e)シャドウ	種類	<p>シャドウの種類をドロップ、ディープから指定します。 ドロップ … 文字とシャドウの間が塗りつぶされません。 ディープ … 文字とシャドウの間が塗りつぶされます。</p>
	距離	<p>シャドウの表示サイズを0～11の範囲で指定します。 設定を0にする事でシャドウの表示がOFFになります。</p>
	カラー	<p>シャドウ色を指定します。※設定方法はスーパー色と同じです</p>
	キー	<p>シャドウのキーレベルを0～100%で指定します。 0%に近い値ほど透明になり、100%に近い値ほど不透明になります。</p>

・PLATE TELOP(P-TELOP)を選択している場合

a)トランジション

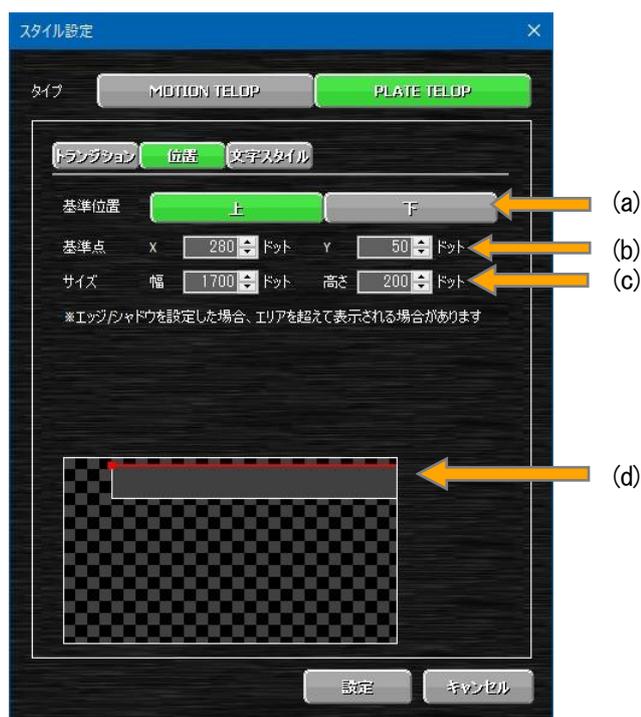
2段目にある[トランジション]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称	内容
(a)トランジション	このテロップに切り替わる時のトランジションを指定します。 トランジションはカット/フェードが有ります。

b)位置

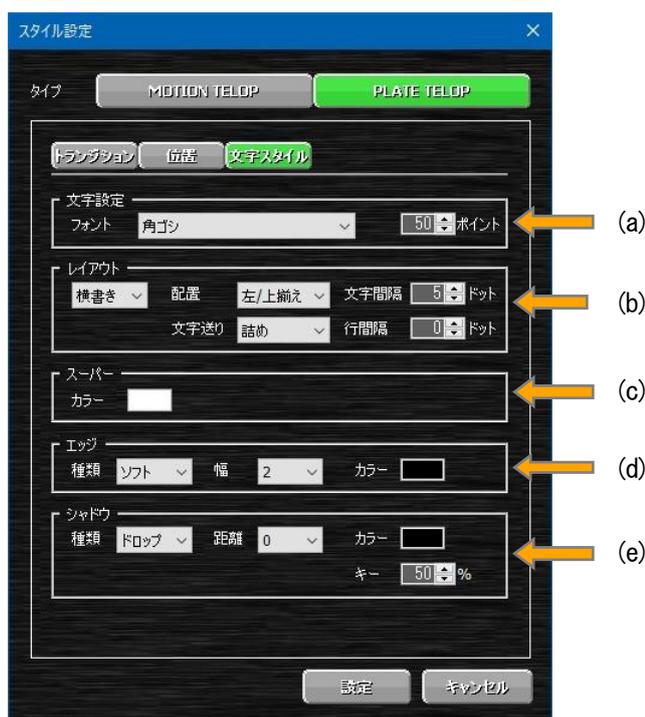
2段目にある[位置]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



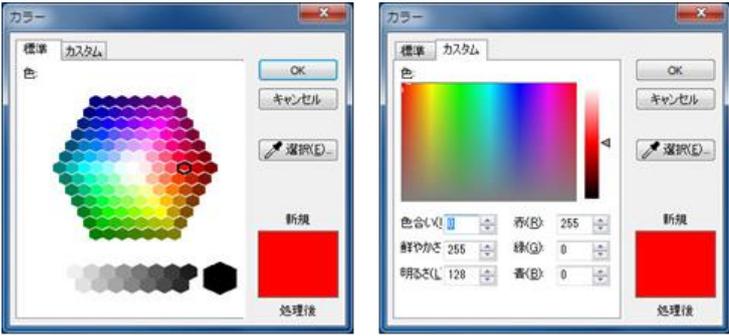
設定名称	内容
(a)基準位置	表示エリアを設定する時の基準点を指定します。 この基準位置は文字スタイルのレイアウト方向によって設定項目が変化します。 設定項目は上下又は左右のどちらかの設定になります。
(b)基準点	表示エリアの基準点になるX/Y座標を指定します。 プレビュー上には赤ドットで表示されます。 また、基準となる辺部分が赤ラインで表示されます。
(c)サイズ	表示エリアの縦横のサイズを指定します。 プレビュー上には基準点から白枠で表示されます。 表示サイズが文字サイズ以下になっても必ず1行(列)は表示されます。
(d)プレビュー	指定された各パラメーター結果をプレビュー表示します。 白枠で囲われた内側が表示エリアになります。

c)文字スタイル

2段目にある[文字スタイル]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称		内容
(a)文字設定	フォント	フォントは角ゴシとユーザー設定の2書体の合計3書体から指定することが可能です。 ただし、ユーザー設定の2書体が指定されていても本体にフォントが登録されていない場合、角ゴシフォントでの送出になります。
	サイズ	表示する文字の大きさを指定します。 設定範囲は10～200ポイントになります。
(b)レイアウト	方向	文字の描画方向を横書き/縦書きから指定します。
	配置	表示エリア内の文字配置を指定します。 配置は左揃え/中揃え/右揃えから指定します。 左/上揃え … 表示エリアの左側面又は上面に文字を揃えます。 中揃え … 表示エリアの中央に文字を揃えます。 右/下揃え … 表示エリアの右側面又は下面に文字を揃えます。 ※方向を横書きにした場合は左揃え/右揃え、縦書きにした場合は上揃え/下揃えの扱いになります。
	文字送り	文字の送りを詰め/箱から指定します。 詰め … 文字のバウンディングボックス(外形)に合わせ文字を送っていきます。文字毎の大きさにより変化します。 箱 … 文字のサイズに合わせて文字を送っていきます。文字毎の送り幅は固定幅になります
	文字間隔	文字と文字の間隔をドット単位で指定します。 設定範囲は-50～50ドットになります。
	行間隔	各行の間隔をドット単位で指定します。 設定範囲は-20～20ドットになります。
次ページに続く		

(c)スーパー	カラー	<p>スーパー色を指定します。 カラー項目の部分をクリックすることで以下のカラー設定ダイアログが表示されます。</p> 
(d)エッジ	種類	<p>エッジの種類をハード、ソフトから指定します。 ハード … エッジ全体が塗りつぶされます。 ソフト … エッジの内側から外にかけてレベルが変化します。</p>
	幅	<p>エッジ幅を0～5の範囲で指定します。 設定を0にする事でエッジの表示がOFFになります。</p>
	カラー	<p>エッジ色を指定します。※設定方法はスーパー色と同じです</p>
(e)シャドウ	種類	<p>シャドウの種類をドロップ、ディープから指定します。 ドロップ … 文字とシャドウの間が塗りつぶされません。 ディープ … 文字とシャドウの間が塗りつぶされます。</p>
	距離	<p>シャドウの表示サイズを0～11の範囲で指定します。 設定を0にする事でシャドウの表示がOFFになります。</p>
	カラー	<p>シャドウ色を指定します。※設定方法はスーパー色と同じです</p>
	キー	<p>シャドウのキーレベルを0～100%で指定します。 0%に近い値ほど透明になり、100%に近い値ほど不透明になります。</p>

6.本体パラメーター設定

本体のメニューにある各種項目を設定する為の操作ができます。

また、出力に影響する部分は簡易的なプレビュー表示をPC上で確認することが出来ます。※1※2



- ①設定項目 … 設定対象の項目を選択します。
- ②プリセット番号 … 設定対象のプリセット番号を選択します。
選択対象が本体と同期している場合は緑色になり、同期していない場合はオレンジ色になります。
本体と非同期になる条件は以下の通りです。
・アプリケーション上のLOCKが有効になっている
・システム設定の「OA中のプリセット切り替えロック」が有効になっている場合
・インターフェース設定のLM-90-10のコントロール対象設定と異なったモードになっている場合
上記条件等で非同期状態の場合、同期可能になった時点で即座に同期されます。
同期している場合、再度同じプリセット番号を押すことでモーションの試写をすることが出来ます。また、試写中に再度選択することで倍速で再生されます。
- ③サブ設定項目 … 設定対象の項目を選択します。
LM-90-03(ロールユニット)が無い場合ロール項目は表示されません。
- ④パラメーター … サブ設定項目に合わせた画面が表示されます。
- ⑤PRESET ON … PRESET ONのON/OFFを切り替えます。
PRESET ONがOFF状態の場合ボタンはグレー表示、ON状態の場合は緑表示になります。また、トランジション実行中はオレンジ表示になり選択が出来なくなります。
- ⑥LOCK … アプリケーションからの操作をロック/アンロックします。
ロック中はボタンが赤表示になります。この状態になるとPRESET ONボタンは選択出来なくなりプリセット番号も変更は出来るが本体と非同期になります。

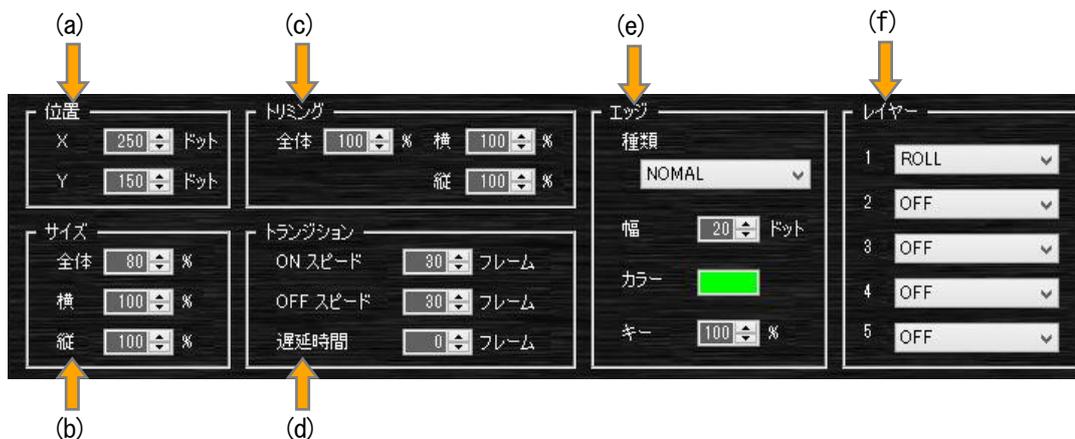
※1外部信号など常時変化するものは再現されません

※2 PCのプレビュー表示は簡易的な表示機能なので本体とは完全に一致しない場合があります

1)プリセットパラメーター設定

(1)L字設定

[プリセット]ボタンを押してその中にある[L字設定] ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。

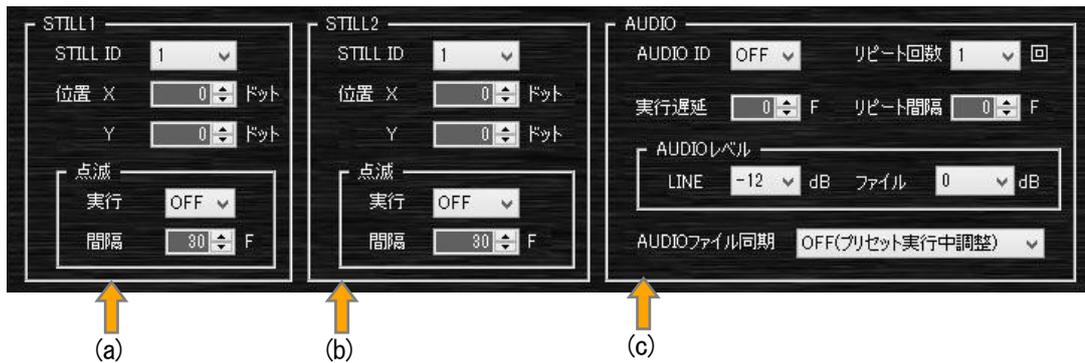


設定名称	内容	
(a)位置	X	LINE IN映像の横方向の表示位置を指定します。※1
	Y	LINE IN映像の縦方向の表示位置を指定します。※1
(b)サイズ	全体	LINE IN映像の縮小率を指定します。※1
	横	LINE IN映像の横方向の縮小率を指定します。※1
	縦	LINE IN映像の縦方向の縮小率を指定します。※1
(c)トリミング	全体	LINE IN映像のトリミングを指定します。※1
	横	LINE IN映像の横方向のトリミングを指定します。※1
	縦	LINE IN映像の縦方向のトリミングを指定します。※1
(d)トランジション	ONスピード	PRESET ON開始から終了までの時間を指定します。※1
	OFFスピード	PRESET OFF開始から終了までの時間を指定します。※1
	遅延時間	PRESET ONIにしてから実際に実行されるまでの時間を指定します。※1
(e)エッジ	種類	エッジの種類を指定します。 種類としてはOFF、NORMAL、RIGHT SHADOW、LEFT SHADOWがあります。 OFF … エッジを非表示にします。 NORMAL … LINE映像の縁全体にエッジを表示します。 RIGHT SHADOW … LINE映像の右下にエッジを表示します。 LEFT SHADOW … LINE映像の左下にエッジを表示します。
	幅	エッジ幅を指定します。※1 設定は2ドット単位になります。
	カラー	エッジ色を指定します。 カラー項目の部分をクリックすることでカラー設定ダイアログが表示されます。
	キー	エッジのキーレベルを指定します。※1 設定は2%単位になります。
(f)レイヤー	レイヤーに関連付ける出力対象を指定します。 レイヤーへの関連付けは最大5つまで出来ます。 レイヤーの優先順位はレイヤー1が一番高くレイヤー2、レイヤー3、レイヤー4、レイヤー5に行くにつれて低くなります。	

※1フォーカスが外れた時設定範囲外や設定できない値の場合、設定できる一番近い値に変換されます。

(2)STILL/AUDIO

[プリセット]ボタンを押してその中にある[STILL/AUDIO] ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



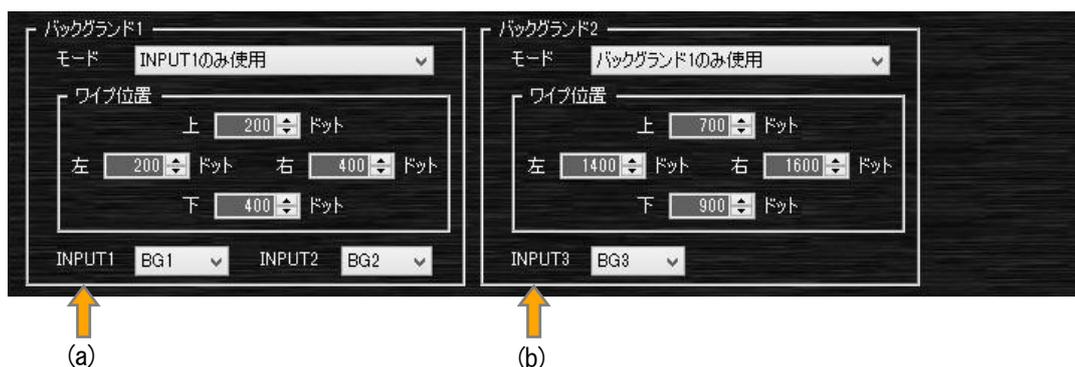
設定名称		内容	
(a)STILL1	STILL ID	STILL1に関連付ける静止画ファイルを指定します。	
	位置	X	STILL1の横方向の表示開始位置を指定します。※1 設定は2ドット単位になります。
		Y	STILL1の縦方向の表示開始位置を指定します。※1 設定は2ドット単位になります。
	点滅	実行	STILL1の点滅表示させるかさせないかの指定をします。
間隔		STILL1の点滅表示の点滅間隔を指定します。※1	
(b)STILL2	STILL ID	STILL2に関連付ける静止画ファイルを指定します。※2	
	位置	X	STILL2の横方向の表示開始位置を指定します。※1※2 設定は2ドット単位になります。
		Y	STILL2の縦方向の表示開始位置を指定します。※1※2 設定は2ドット単位になります。
	点滅	実行	STILL2の点滅表示させるかさせないかの指定をします。
間隔		STILL2の点滅表示の点滅間隔を指定します。※1	
(c)AUDIO	AUDIO ID	関連付けるAUDIOファイルを指定します。	
	実行遅延	AUDIOの再生が開始されるまでの時間を指定します。※1	
	リピート回数	AUDIOのリピート回数を指定します。	
	リピート間隔	AUDIOのリピート実行時の遅延時間を指定します。※1	
	レベル	LINE	AUDIOファイル再生時のLINE音声レベルを指定します。
		ファイル	AUDIOファイルの音声レベルを指定します。
ファイル同期	AUDIOファイル再生時のLINE音声レベルの調整方法を指定します。		

※1フォーカスが外れた時設定範囲外や設定できない値の場合、設定できる一番近い値に変換されます。

※2DSKのモード設定でSTILLが設定されている場合、DSK側で設定されている設定値で実行されます。

(3)バックグラウンド

[プリセット]ボタンを押してその中にある[バックグラウンド] ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



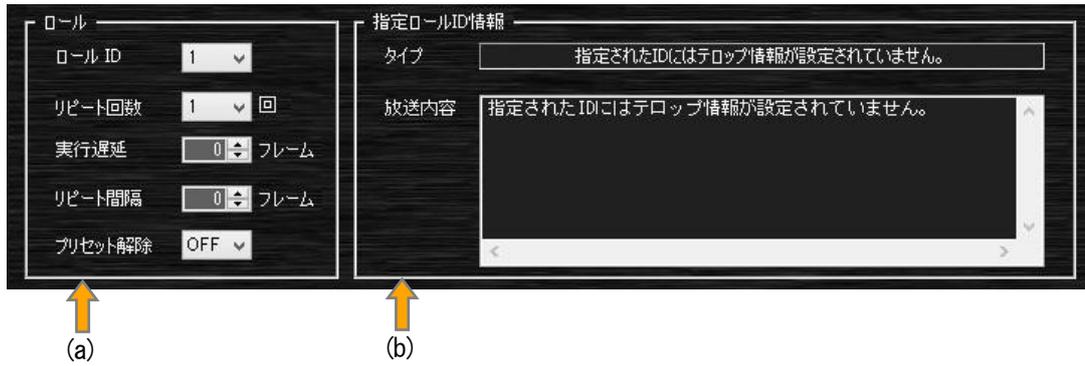
設定名称		内容
(a)バックグラウンド1	モード	バックグラウンド1の表示モードを設定します。 INPUT1だけなのかINPUT1とINPUT2を出すかの指定をします。
	ワイプ位置	INPUT1とINPUT2の境界位置を指定します。※1
	INPUT1	INPUT1として使用する入力信号を一覧から指定します。
	INPUT2	INPUT2として使用する入力信号を一覧から指定します。
(b)バックグラウンド2	モード	バックグラウンド2の表示モードを設定します。 バックグラウンド1だけなのかバックグラウンド1とINPUT3を出すかの指定をします。
	ワイプ位置	バックグラウンド1とINPUT3の境界位置を指定します。※1
	INPUT3	INPUT3として使用する入力信号を一覧から指定します。

※1フォーカスが外れた時設定範囲外や設定できない値の場合、設定できる一番近い値に変換されます。

(4)ロール

[プリセット]ボタンを押してその中にある[ロール] ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。

LM-90-03(ロールユニット)が本体に実装されていない場合は項目自体が表示されません。



設定名称		内容
(a)ロール	ロールID	関連付けるロールIDを指定します。
	リピート回数	ロールテロップのリピート回数を指定します。
	実行遅延	ロールテロップの再生開始の遅延時間を指定します。※1
	リピート間隔	ロールテロップのリピート開始の遅延時間を指定します。※1
	プリセット解除	ロールテロップの送出完了時、自動的にPRESET ONを解除するかの指定をします。
(b)ロールID情報	タイプ	現在設定されているロールIDのタイプを表示します。
	放送内容	現在設定されているロールIDに設定されている放送内容を表示します。 対象のロールIDがテキストファイルで更新されていた場合は更新されている内容で表示されます。

※1フォーカスが外れた時設定範囲外や設定できない値の場合、設定できる一番近い値に変換されます。

2)DSK/パラメーター設定

[DSK]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



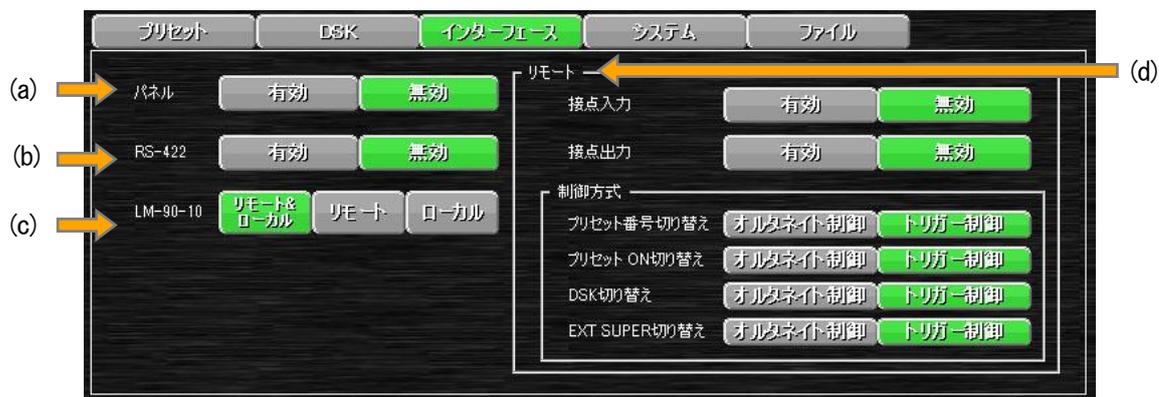
設定名称		内容	
(a)モード		DSKに割り当てる素材を指定します。※2	
(b)キー		DSKのキーレベルを指定します。※1	
(c)INTランジション	タイプ	DSKをONにした時のランジションタイプを指定します。	
	スピード	INTランジションのスピードを指定します。※1	
(d)OUTランジション	タイプ	DSKをOFFにした時のランジションタイプを指定します。	
	スピード	OUTランジションのスピードを指定します。※1	
(e)点滅	実行	点滅表示のON/OFFを指定します。	
	間隔	点滅表示の間隔を指定します。※1	
(f)STILL	STILL ID	モードでSTILLを指定した時に使用する静止画を指定します。	
	位置	X	静止画の横方向の表示位置を指定します。※1
		Y	静止画の縦方向の表示位置を指定します。※1
(g)DSK		DSKのON/OFFを切り替えます。 DSKがOFF状態の場合はグレー表示、ON状態の場合は緑表示になります。また、ランジション実行中はオレンジ表示になり選択が出来なくなります。	
(h)LOCK		アプリケーションからの操作をロック/アンロックします。 ロック中はボタンが赤表示になります。この状態になるとDSKボタンは選択出来なくなります。 また、このLOCKボタンはプリセットにあるLOCKボタンと連動しています。	

※1 フォーカスが外れた時設定範囲外や設定できない値の場合、設定できる一番近い値に変換されます。

※2 モードでSTILLを設定した場合、プリセットのSTILL2で設定されているSTILL ID及び位置設定X/Yは無視されDSK側で設定されているSTILL ID及び位置設定X/Yで実行されます。

3) インターフェースパラメータ設定

[インターフェース]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称	内容		
(a)パネル	パネル接続の有効/無効を指定します。		
(b)RS-422	RS-422接続の有効/無効を指定します。		
(c)LM-90-10	LM-90-10(アプリケーション)からの制御を許可する動作モードを指定します。 指定された動作モード時のみアプリケーションからの送出操作ができるようになります。		
(d)リモート	接点入力	リモート入力の有効/無効を指定します。	
	接点出力	リモート出力の有効/無効を指定します。	
	制御方式	プリセット番号切り替え	プリセット1~10の接点入力についての制御方式を指定します。
		プリセット ON切り替え	プリセット ONの接点入力についての制御方式を指定します。
		DSK切り替え	DSKの接点入力についての制御方式を指定します。
EXT SUPER切り替え		EXT SUPERの接点入力についての制御方式を指定します。	

4)システムパラメーター設定

(1)環境設定

[システム]ボタンを押してその中にある[環境設定]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称	内容	
(a)出力フォーマット	現在設定されている出力フォーマットが表示されます。 アプリケーションからは出力フォーマットは確認のみ出来ます。 設定を変更したい場合は、アプリケーションの接続を一旦切ってから本体メニュー上から出力フォーマットを変更します。	
(b)ゲンロック	H	リファレンス信号に対する水平方向のタイミングを指定します。※1
	V	リファレンス信号に対する垂直方向のタイミングを指定します。※1
(c)セルフキーレベル	セルフキー機能を使用する時のキーレベルの補正値を指定します。※1 元レベルが低すぎて抜けが悪い場合は、ハイゲインモードをONにしてください。 ハイゲインモードをONにする事で10%程度の輝度でも抜くことが出来ます。	
(d)AUDIOレベル	ライン音声のレベルを指定します。	
(e)メニュー表示	PVアウトのメニュー表示方法を指定します。	
(f)4:3マーカー	出力フォーマットが1080iの時4:3マーカーの表示の有無を指定します。	
(g)LCDスクリーンセーバー	本体正面の液晶画面のスクリーンセーバー機能のON/OFFを指定します。	
(h)OA中のプリセット切り替えロック	プリセットがON状態の時のプリセット番号の切り替えを許可するかしないかの指定をします。	
(i)プリセット切り替え時のAUDIO	プリセットがON状態でプリセット番号を変更した時の音声再生の有無を指定します。	
(j)AUDIO再生する時のCH数	音声ファイルを再生する時のAUDIOチャンネル数を指定します。	

※1フォーカスが外れた時設定範囲外や設定できない値の場合、設定できる一番近い値に変換されます。

(2)ライン入力エラー

[システム]ボタンを押してその中にある[ライン入力エラー]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称	内容	
(a)エラー状態になった時の動作	ライン入力がエラー状態になった時の動作を設定します。 BLACK ... 黒信号を出力します FREEZE ... 信号が抜ける直前の入力信号をフリーズします OUTPUT CUT ... 出力信号を遮断します PRESET10 ... PRESET10をONにします CHANGEOVER ... ライン信号をLINE入力からBG1入力に切り替えます ※BLACK/FREEZE/OUTPUT CUTの場合はライン信号が無い時のみエラー検知して指定動作に最短時間で切り替わります	
(b)エラー解消時の動作※1	自動復帰の有無	ライン信号のエラーが解消した場合の動作の有無を設定します。
	自動復帰時間	エラー解消後、自動復帰するまでの時間を設定します ※0を設定した場合は各動作モードの最短時間で復帰させます
(c)信号無し検出※2	検出の有無	ライン信号が無い場合のエラー検知の有無を設定します。
	検出時間	ライン信号が無い場合のエラー検知までの時間を設定します。
(d)黒味検出※2	検出の有無	ライン信号が黒味の場合のエラー検知の有無を設定します。
	検出時間	ライン信号が黒味の場合のエラー検知までの時間を設定します。
(e)フリーズ検出※2	検出の有無	ライン信号が変化しない場合のエラー検知の有無を設定します。
	検出時間	ライン信号が変化しない場合のエラー検知までの時間を設定します。
(f)無音検出※2	検出の有無	ライン信号の音声が無音の場合のエラー検知の有無を設定します。
	検出時間	ライン信号の音声が無音の場合のエラー検知までの時間を設定します。
	無音検知レベル	無音検知レベルを指定します。

※1エラー時の動作がPRESET10の場合のみ設定できます

※2エラー時の動作がPRESET10/CHANGEOVERの場合のみ設定できます

※フォーカスが外れた時設定範囲外や設定できない値の場合、設定できる一番近い値に変換されます。

(3)シーケンスモード

[システム]ボタンを押してその中にある[シーケンスモード]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。



設定名称	内容
(a)シーケンスモード	<p>シーケンスモードをどうするか設定します。 有効にした状態でリモート制御状態になるとシーケンス実行が開始されます。</p> <p>※設定を有効にした場合、必ずリモート/ローカル設定がローカル側に切り替わります</p>
(b)実行開始	<p>シーケンスモードの動作を開始/停止します。</p> <p>※動作を開始するとリモート/ローカル設定がリモートに切り替わり、停止するとローカルに切り替わります</p>
(c)実行順番設定	<p>シーケンス実行の実行順番を設定します。 それぞれ実行するプリセット番号及び表示時間、次のプリセット番号を実行するまでの空白時間を設定することができます。</p>
	<p>プリセットNo.</p> <p>実行したいプリセット番号を設定します。</p>
	<p>表示時間</p> <p>設定したプリセット番号の表示時間を指定します。</p> <p>※LM-90-03ボードが実装されていてモーションテロップが設定されていた場合、この表示時間は無視され文字列をすべて出し切った時点で表示が終了します。 ※L字のトランジション時間は表示時間に含まれません</p>
<p>空白時間</p> <p>次のプリセット番号を実行するまでの空白時間を指定します。 設定を0にすることでL字を解除せずそのまま次のL字に移行します。</p>	

※シーケンスモードが実行中の場合は、次の開始から設定が反映されます

5)ファイルパラメーター設定

[ファイル]ボタンを押すことで以下の画面が表示されます。

登録されている静止画の番号部分にマウスカーソルを持って行くことで登録されているイメージが表示されます。
また、より大きく表示したい場合は表示したい番号のボタンをクリックしてメニュー上に有るプレビューを選択することでより大きいサイズで表示することが出来ます。

登録されている音声を確認したい場合、PC上でも確認することが出来ます。

(AUDIOを再生できるPC環境のみ)

再生したい番号のボタンを選択してメニュー上に有る再生を選択するとPC上で再生します
登録されている静止画及び音声はドラッグ&ドロップで移動又はコピーすることが出来ます。

(コピー時は[Ctrl]キー押しでドラッグ&ドロップ)

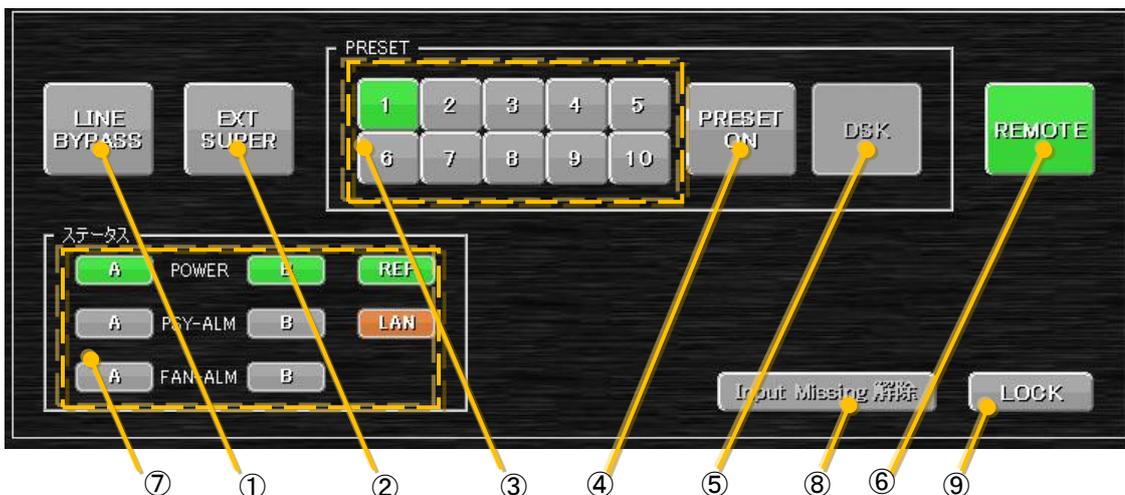


設定名称	内容
(a)静止画	静止画を登録または削除したい番号のボタンを押すことでメニューが表示されます。 表示されたメニューから実行したい項目を選択することで各種動作を実行します。 静止画が登録されている番号はボタンが緑色に表示されます。
(b)音声	音声を登録または削除したい番号のボタンを押すことでメニューが表示されます。 表示されたメニューから実行したい項目を選択することで各種動作を実行します。 音声が登録されている番号はボタンが緑色に表示されます。

7.本体操作

本体フロントパネルと同等の操作をする事が出来ます。また、各種ステータス表示もされます。

また、現在選択中のプリセット番号は簡易的なプレビュー表示をPC上で確認することが出来ます。※1※2



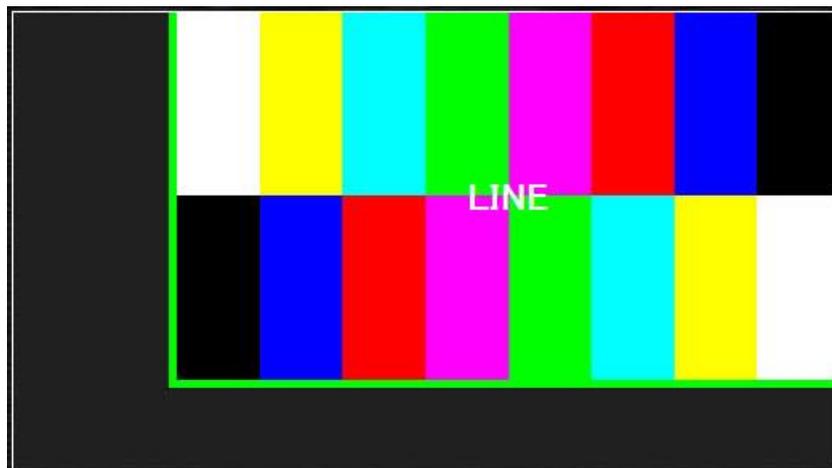
設定名称	内容	
①LINE BYPASS	エマージェンシースルーのON/OFFを切り替えます。 エマージェンシースルーがONの場合は赤表示され、通常時はグレー表示になります。また、ON時はEXT SPUER、PRESET1～10、PRESET ON、DSKボタンは選択出来なくなります。 ※LM-90HD/SD本体正面のLINE BYPASS、または外部接点制御でONした時は、アプリケーションからOFFにすることはできません。	
②EXT SUPER	外部スーパーのON/OFFを切り替えます。 外部スーパーがONの場合は緑表示され、通常時はグレー表示になります。	
③プリセット番号	10個のプリセットに割り当てた設定を選択することが出来ます。 選択されているプリセット番号は緑表示になります。	
④PRESET ON	PRESET ONのON/OFFを切り替えます。 PRESET ON がONの場合は緑表示され、通常時はグレー表示になります。また、トランジション実行中はオレンジ表示になり選択が出来なくなります。	
⑤DSK	DSKのON/OFFを切り替えます。 DSKがONの場合は緑表示され、通常時はグレー表示になります。また、トランジション実行中はオレンジ表示になり選択が出来なくなります。	
⑥REMOTE	LOCAL/REMOTEの設定を切り替えます。 LOCAL設定中は赤表示、REMOTE設定中は緑表示になります。 ※この設定と本体パラメーターのインターフェース設定にあるLM-90-10の設定により、各送出ボタンが選択出来なくなることがあります。	
⑦ステータス	POWER	電源A/Bの通電を表します。通電中は緑表示になります。
	PSY-ALM	電源A/Bの状態を表します。故障または電源断の場合、赤表示になります。
	FAN-ALM	本体背面のFAN状態を表します。FANIに異常がでた場合、赤表示になります。
	REF	リファレンス信号の状態を表します。 信号が有る場合は緑表示、無い場合は赤表示になります。
	LAN	LANのステータス表示になります。1000BASEでリンクしている場合は橙表示、10/100BASEでリンクしている場合は緑表示になります。
⑧Input Missing 解除	PRESET10やCHANGEOVERが実行されている時、実行を解除します。	
⑨LOCK	アプリケーションからの送出操作のロック/アンロックを指定します。 ロック中はボタンが赤表示され、通常時はグレー表示になります。 ロック中は全ての送出操作が無効になり、各ボタンは選択出来なくなります。	

※1外部信号など常時変化するものは再現されません

※2 PCのプレビュー表示は簡易的な表示機能なので本体とは完全に一致しない場合があります

8.プレビュー

本体パラメーター設定または本体操作画面時、現在設定されているプリセット番号の送出イメージが表示されます。※1※2



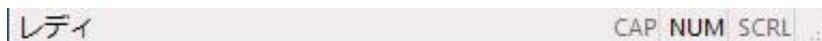
プレビュー画面

※1外部信号など常時変化するものは再現されません

※2 PCのプレビュー表示は簡易的な表示機能なので本体とは完全に一致しない場合があります

9.ステータスバー

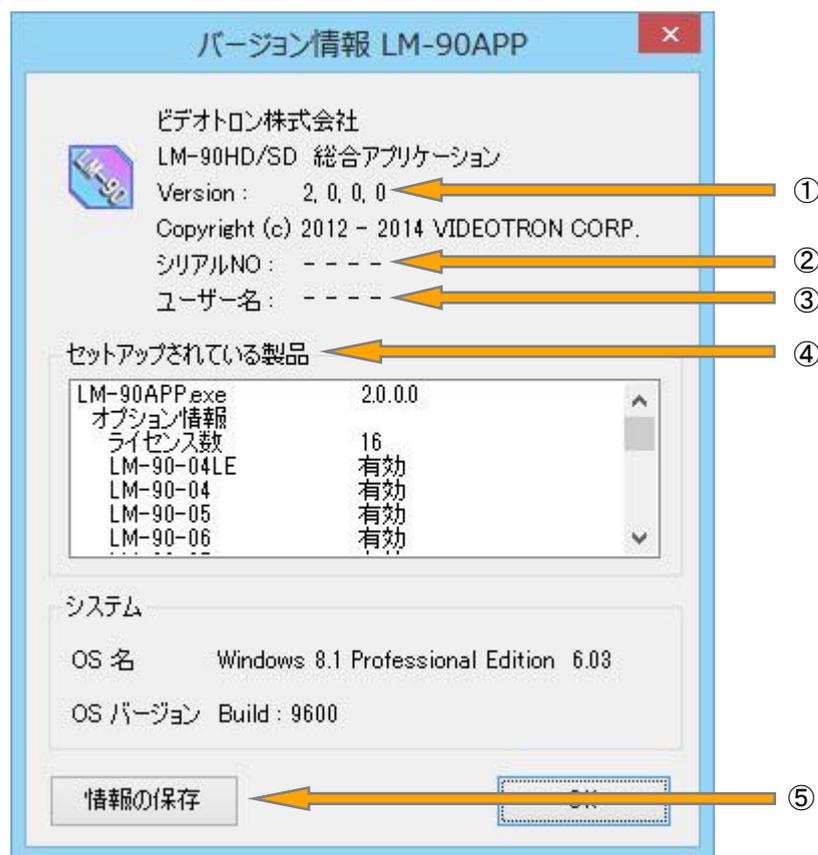
設定しようとしているメニューの情報が表示されます。



メインメニューやツールバーでのメニュー選択中にそのメニューの実行内容等が表示されます。

10.バージョン情報

メニューの[ヘルプ]-[バージョン情報]から以下のダイアログが表示されます。



バージョン情報

- ①製品バージョン
 - … LM-90HD/SD アプリケーションの製品バージョンが表示されます。
(CDのラベル上などにはこのバージョンが記載)
個々のモジュールバージョンは④の項目で確認出来ます。
- ②シリアル番号
 - … インストール時に入力したシリアル番号が表示されます。
シリアル番号はCDのラベル上などに記載されています。
- ③ユーザー名
 - … インストール時に入力したユーザー名が表示されます。
- ④セットアップされている製品
 - … LM-90HD/SD アプリケーションの製品として使用される
個々のモジュールバージョンやライセンスが表示されます。
また、LM-90HD/SDに接続されている場合は接続先の本体バージョンも表示
されます。
- ⑤情報の保存
 - … バージョン情報に表示されている情報をテキストファイルとして
保存します。

7. 基本操作

1. 実行対象選択ダイアログ

起動アプリケーションの実行対象を登録及び選択します。

この選択画面は複数の実行ライセンスが有効の場合のみ表示されます。

※LE版では表示されません

注意 複数のLM-90HD/SDに接続する場合は本体設定のTCP PORT設定を重複しないように設定して下さい。

設定はLM-90HD/SD本体の設定メニューから「INTERFACE」 - 「NETWORK」 - 「OWNER」と移動して「TCP PORT」から行います。

本体とアプリの通信には設定ポートと設定ポート+1が使用されています。この2つのポート番号が端末間で重複しないように設定して下さい。

(1) 実行対象の追加

1) ダイアログ上にある[追加]ボタンを押します。

実行対象一覧の各項目は次の通りです。

名称

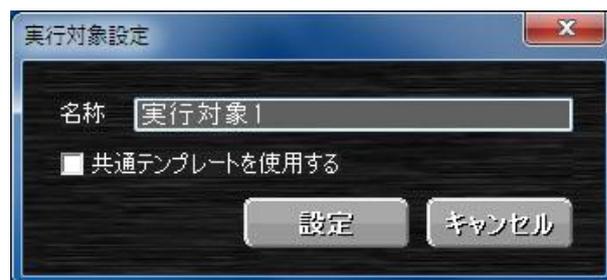
ユーザーが登録した任意の名称

テンプレート

共通テンプレートを使用している場合は「共通」、使用していない場合は「独立」と表示されます。



2) 対象の名称及び共通テンプレートの使用の有無を設定して[設定]ボタンを押します。

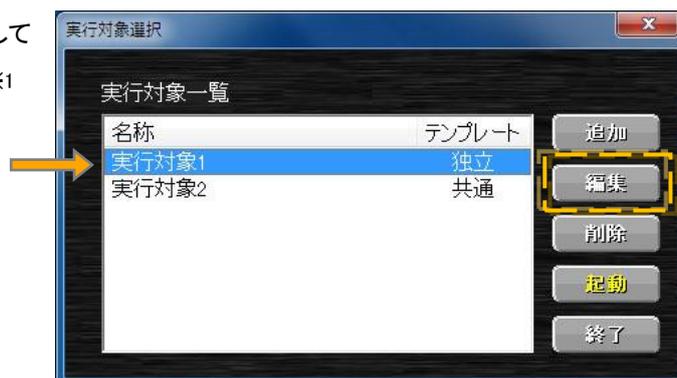


名称 …… 実行対象一覧に表示される名称を指定します。
(ユーザーが識別する為のものなので任意の名称で指定できます)

共通テンプレート …… 共通テンプレートの使用の有無を指定します。
設定をOFFにした場合は実行対象毎に個別にテンプレートが管理されます。
設定をONにした場合はONにした実行対象全てで共通のテンプレートとして管理されます。この場合、現在の対象と違う対象でテンプレートを変更しても現在の対象にテンプレートが自動的に反映されます。

(2)実行対象の編集

1)実行対象一覧上から編集したい対象を選択して
ダイアログ上にある[編集]ボタンを押します。※1

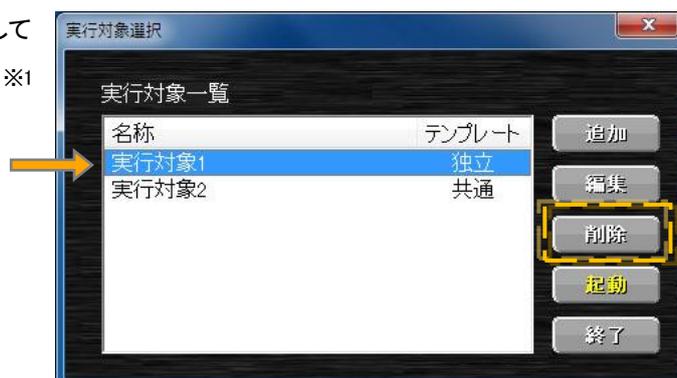


2)変更したい項目を修正して[設定]ボタンを押します。



(3)実行対象の削除

1)実行対象一覧上から削除したい対象を選択して
ダイアログ上にある[削除]ボタンを押します。※1



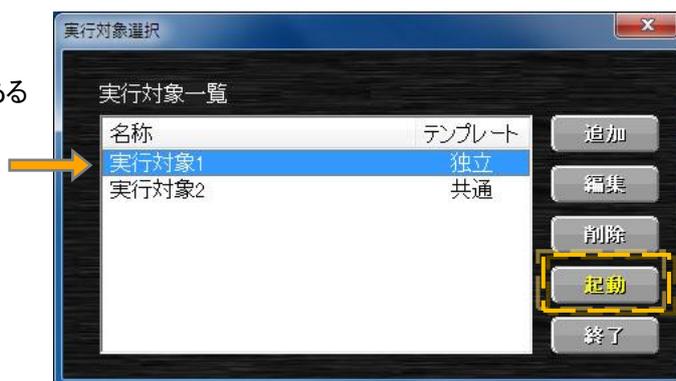
2)対象データの削除の最終確認ダイアログが表示されます。

本当に削除して問題なければ[はい]のボタンを押します。

削除を取りやめる場合は[いいえ]のボタンを押します。

(4)実行対象の起動

- 1)実行対象一覧上から起動したい対象を左ダブルクリック又は選択してダイアログ上にある[起動]ボタンを押します。※1※2※3



※1すでに選択対象が起動している場合は編集、削除、起動する事は出来ません。

※2所有しているライセンス数分すでに起動している場合は起動する事は出来ません。

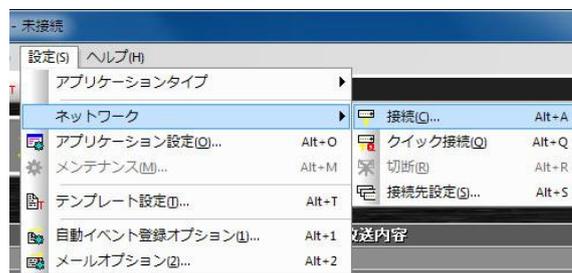
※3本体に接続してデフォルトフォントが見つからなかった場合、本体へフォントをインストールするかの問い合わせが表示されます。

2. ネットワーク設定

(1)接続※1

接続先設定ですでに登録されている端末の一覧から新たに接続する端末を指定することができます。

- 1)メニューの[設定] - [ネットワーク] - [接続] を選択
又はツールバーの接続のアイコンをクリックします。
キーボードから行う場合は[Alt] + [A]を押します。



- 2)接続先端末設定のダイアログが表示されたら
登録端末一覧から接続したい端末を指定し
[接続]ボタンを押します。



(2)クイック接続※1

接続先設定でデフォルト接続に設定されている端末に接続します。
現在接続されている端末は切断されます。

- メニューの[設定] - [ネットワーク] - [クイック接続] を
選択又はツールバーのクイック接続のアイコン
をクリックします。
キーボードから行う場合は[Alt] + [Q]を押します。

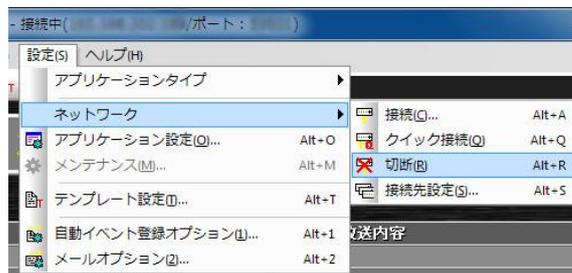


※1本体に接続してデフォルトフォントが見つからなかった場合、本体へフォントをインストールするかの問い合わせが表示されます。

(3)切断

現在接続している端末との通信を切断します。

メニューの[設定] - [ネットワーク] - [切断] を選択
又はツールバーの切断のアイコンをクリックします。
キーボードから行う場合は[Alt] + [R]を押します。



(4)接続先設定

接続先の端末を設定(登録)します。

1)メニューの[設定] - [ネットワーク] - [接続先設定] を
選択又はツールバー上にある接続先設定のアイコンを
クリックします。
キーボードから行う場合は[Alt] + [S]を押します。



2)接続先端末設定のダイアログが表示されたら端末一覧から登録したり、直接入力を使用して手動で端末を登録したりします。



接続先端末設定ダイアログ

- ①接続端末検索・・・同一ネットワーク上にある端末(LM-90HD/SD)を検索して端末一覧に表示します。※1
- ②端末一覧・・・検索で見つかった端末が一覧表示されます。
- ③登録・・・端末一覧で選択している端末を接続端末として登録します。
- ④登録端末一覧・・・登録された接続端末の一覧が表示されます。
- ⑤接続・・・登録端末一覧で選択している送出端末に接続します。
- ⑥デフォルト・・・複数の端末が登録されていた場合に接続する端末を設定します。
- ⑦編集・・・選択された接続端末の設定を変更します。
- ⑧登録削除・・・登録されている接続端末を登録端末一覧から削除します。
- ⑨直接登録・・・端末一覧からではなく直接IP又はMACアドレスを設定して端末を登録します。
- ⑩自動接続・・・ONにする事でデフォルト設定されている端末に起動時など自動的に接続します。

・接続端末検索を使用しての登録※1

a)接続先端末設定ダイアログ内にある[接続端末検索]ボタンを押します。

実行するとプログレスバーが表示されてPCと同じネットワーク上にある端末(LM-90HD/SD)を検索します。
検索が完了して端末が発見されると端末一覧に発見した端末が一覧表示されます。

※同一ネットワーク上に端末があっても端末が起動していない場合や端末が別のソフト等と通信状態の場合は、検索をしても見つからない場合があります。

※使用PCIに複数のネットワークアダプターがある場合は複数回プログレスバーが表示される場合があります。

b)端末一覧に表示されている端末から接続先にしたい端末を選択して[登録]ボタンを押します。

複数の端末を登録する場合はこの操作を繰り返し実行します。

c)登録された端末は登録端末一覧に表示されます。これでアプリケーションへの端末登録は完了です。

ここで登録された端末がメニューの[設定] - [ネットワーク] - [接続]を選択した時の登録端末一覧にも表示されます。

d)次にそのまま登録端末への接続を行う場合は、登録端末一覧から接続先の端末を選択して[接続]ボタンを押します。

次回からアプリケーション起動時に自動的に接続する場合は登録端末一覧から接続端末を選択した状態で[デフォルト]ボタンを選択して自動接続のチェックをONにします。

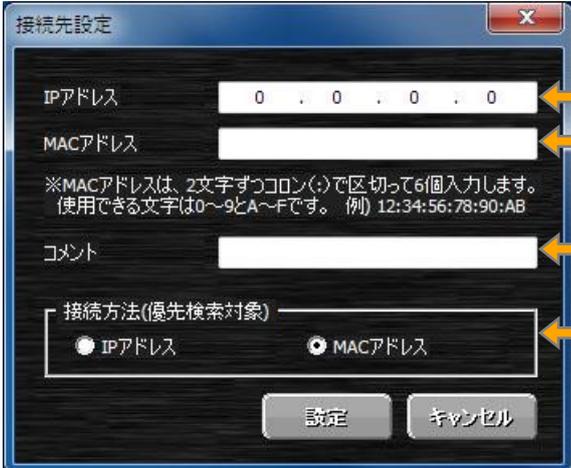
(選択されると一覧の左側に●が表示されます)

※1 サブネット(セグメント)を超えての端末検索はされません。この場合は端末検索ではなく直接端末設定をしてください。

・端末直接指定での端末登録

a)接続先端末設定ダイアログ内にある[直接登録]ボタンを押します。

ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。



接続先設定ダイアログのスクリーンショット。ダイアログには「接続先設定」というタイトルと閉じるボタンがあります。フィールドには「IPアドレス」(0.0.0.0)、MACアドレス、コメント、接続方法(優先検索対象)があります。接続方法は「IPアドレス」と「MACアドレス」のラジオボタンがあり、「MACアドレス」が選択されています。設定とキャンセルボタンがあります。右側に番号①から④の矢印が指しています。

接続先設定ダイアログ

- ①IPアドレス …… 接続先端末のIPアドレスを設定します。
(接続方法がMACアドレスの場合は設定の必要がありません)
- ②MACアドレス ……接続先端末のMACアドレスを設定します。
(接続方法がIPアドレスの場合は設定の必要がありません)
- ③コメント ……必要に応じて設定内容が分かるように端末名称等を入力します。
- ④接続方法 …… 端末に接続する時に指定IPで通信をするか、MACアドレスからIPを割り出して通信をするかを指定します。
 - IPアドレス …… 固定IPで端末(LM-90HD/SD)を使用する場合はこちらを使用します。
固定IPでMACアドレス接続を使用しても問題ないですがIPアドレスの検索処理分起動等が遅くなります。
 - MACアドレス ……端末のIPアドレスが頻繁に変更される場合はこちらを使用します。
MACアドレスからIPアドレスを見つけ出す為、端末側のIPアドレスが変更になっても再設定の必要がありません。

b)各項目の設定が完了したら[設定]を押し、設定内容を登録します。

登録が完了すると登録端末一覧に表示されます。

・登録済み端末の情報変更

a)情報を変更したい端末を登録端末一覧選択して[編集]ボタンを押します。

(直接登録時と同様に接続先設定ダイアログが表示されます)

各項目の設定は現在設定されている値が反映されています。

b)変更したい場所の設定を入力して[設定]ボタンを押します。

登録が完了すると登録端末一覧に変更内容が表示されます。

3. アプリケーション設定

スケジュール実行および本体パラメーター設定でのみ選択できます。

・本体パラメーター設定

1)メニューの[設定] - [アプリケーション設定] を選択

又はツールバーのアプリケーション設定のアイコンをクリックします。

キーボードから行う場合は[Alt] + [O]を押します。



2)アプリケーション設定ダイアログが表示されたら、必要に応じて各項目を設定します。



アプリケーション設定ダイアログ

①ON AIR中のプリセットでもパラメーター変更を出来るようにする

ON AIR中のプリセットに対してパラメーターの変更をすることが出来るかの設定をします。

設定をONにすることでON AIR中のプリセットでも設定を変更できるようになりますが、直接ON AIRの表示が変化するため設定をする場合は十分に注意してください。

※PRESET ON中に設定を変更した場合、PRESET ONで動作が決定されるトランジションや回数指定、テロップ出力などは即座に出力に反映されません。ただし、設定値自体は反映されているため次回PRESET ON時から設定が反映されます。

4. メンテナンス

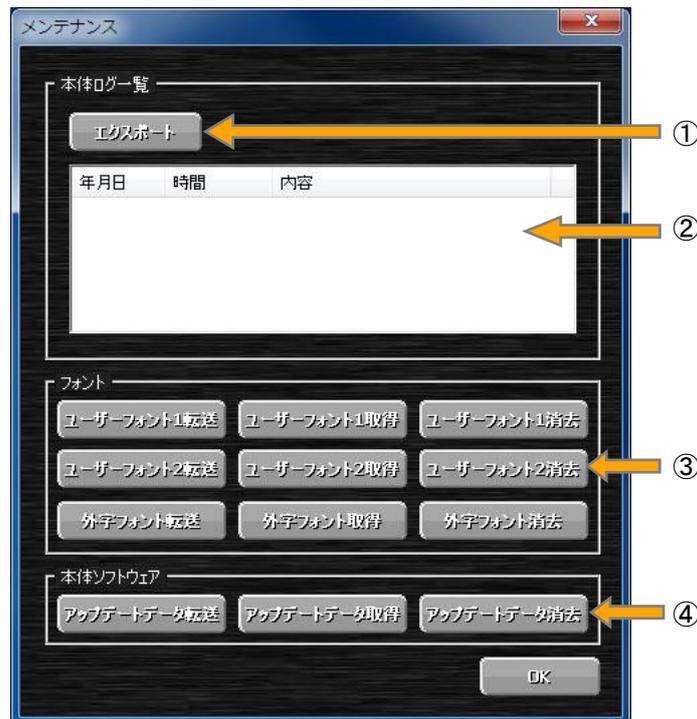
1)メニューの[設定] - [メンテナンス] を選択

又はツールバーのメンテナンスのアイコンをクリックします。

キーボードから行う場合は[Alt] + [M]を押します。



2)メンテナンスダイアログが表示されたら、必要に応じて本体ログの取得及び本体プログラムのバージョンアップを行います。



①エクスポート

ログ一覧で表示されているログ情報をローカルファイルとして保存します。

②ログ一覧

本体に保存されているログの一覧が表示されます。

③フォント

各種フォントの設定/取得/消去を行います。

テンプレート設定で使用されているフォントを削除した場合、本体に内蔵されている角ゴシで出力されます。



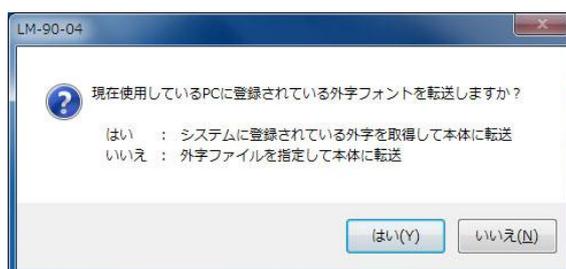
TrueType フォントを商用利用される場合は、フォントメーカーと個別の契約が必要になる場合があります。詳しくは、各フォントメーカーにお問い合わせ下さい。



外字フォントは必ず本体に登録しているものと OS に登録しているものを同じものにして下さい。異なるものを登録していた場合、実際に送出される文字がアプリ上と異なる場合があります。

・外字フォントの転送について

a)[外字フォント転送]ボタンを押すと以下のダイアログが表示されます。



b)現在のPCに登録されている外字フォントを自動的に取得して本体にフォントを転送する場合は
[はい]のボタンを押します。(C-1へ)

ローカルディスク等にすでに保存されている外字フォントを転送する場合は[いいえ]のボタンを
選択します。(C-2へ)

C-1)[はい]のボタンを押した場合、問題なく外字フォントがPCから取得できれば転送処理が
実行されます。

使用しているPCに外字などが登録されていない場合はエラーメッセージが表示されて転送処理が
中断されます。

C-2)[いいえ]のボタンを押した場合、ローカルディスク等にすでに保存されている外字フォントを選択して
フォントの転送が開始されます。

・外字フォントの取り出し方法について

Windowsの外字エディター等で作成した外字フォントの取り出し方法は以下の方法で行います。
ここでは例としてローカルディスク(D:)に外字ファイルを保存しています。

a)「スタート」ボタン → 「全てのプログラム」 → 「アクセサリ」の順にクリックして一覧内にある
「コマンドプロンプト」を右クリックして、表示メニューから「管理者として実行」をクリックします。

b)「ユーザーアカウント制御」画面が表示されるので「はい」をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」画面が表示されない場合は次の手順に進んでください。

c)コマンドプロンプトの画面が表示されら次の文字列を半角で入力し[Enter]キーを押します。

```
copy Δc:¥windows¥fonts¥eudc.*Δd:
```

※上記のΔは半角スペースです。

d)コピーに成功したら外字フォントに必要なローカルディスク(D:)にEUDC.EUFファイルと
EUDC.TTEファイルがコピーされます。

※LM-90HD/SDで使用するデータはEUDC.TTEファイルのみです。

④本体ソフトウェア※1

本体ソフトウェアのバージョンアップやソフトウェア取得を行います。

また、アップデートデータを消去する事で工場出荷時の本体ソフトウェアで起動することが出来ます。

※1 追加/削除を行ったデータを反映するには本体の再起動が必要です。

5. テロップ登録メニュー

LM-90-04 LEの場合、LM-90 HD/SD(LM-90-03)に対して最大4つのテロップを登録することができます。

(1)登録データの取得



1)画面上にあるテロップ1～4で取得したいテロップの[取得]ボタンを押します。

2)本体からのテロップ情報取得の最終確認ダイアログが表示されます。

本当に取得して問題なければ[はい]のボタンを押します。

取得を取りやめる場合は[いいえ]のボタンを押します。

データを取得すると現在設定中のデータは破棄され取得データが反映されます。

(2)テロップ情報の設定



- 1)画面上にあるテロップ1～4で設定したいテロップの[スタイル]ボタンを押します。
- 2) [スタイル]ボタンを押すと以下のスタイル設定ダイアログが表示されます。



- 3)登録したいテロップの動作タイプを設定します。
動作タイプはモーションテロップまたは、プレートテロップから指定することができます。
モーションテロップに設定された場合、メイン画面上に表示バッファ使用率のバーが表示されます。
- 4)動作タイプを指定したら指定タイプの詳細設定をします。
設定項目は大きく分けてトランジション/位置/文字スタイルの3つになります。
 - a)トランジション
設定項目はテンプレート設定のトランジションと同様の項目になります。
詳細はP-15または、P-19を参照して下さい。
 - b)位置
設定項目はテンプレート設定の位置と同様の項目になります。
詳細はP-16または、P-20を参照して下さい。
 - c)文字スタイル
設定項目はテンプレート設定の文字スタイルと同様の項目になります。
詳細はP-17または、P-21を参照して下さい。
- 5)スタイルの詳細設定が完了したら[設定]ボタンを押します。
- 6)スタイル設定が完了したら②の部分に送出したい文字列を入力します。

(3)設定データの転送



1)画面上にあるテロップ1～4で転送したいテロップの[転送]ボタンを押します。

2)テロップ情報転送の最終確認ダイアログが表示されます。

本当に転送して問題なければ[はい]のボタンを押します。

転送を取りやめる場合は[いいえ]のボタンを押します。

データを転送すると現在設定されているテロップ情報が本体に送られ本体の設定情報が変更されます。

(4)テロップ情報インポート

ファイルに保存されているテロップ情報(STD)ファイルを登録テロップして読み込みます。

1)メイン画面内にあるテロップ1～4で登録先のテロップを選択しメインメニューの[ファイル] - [インポート]を選択します。選択対象になったテロップは青い枠で囲まれます。

2)読み込みたいテロップ情報ファイルを一覧上から選び[開く]のボタンを選択します。

3)問題なく読み込まれると登録先のテロップに各設定情報が読み込まれます。

(5)テロップ情報エクスポート

現在選択されているテロップをファイルに保存します。

1)メイン画面内にあるテロップ1～4から保存したいテロップ情報を選択してメインメニューの[ファイル] - [エクスポート]を選択します。

2)保存先の場所とファイル名を設定して[保存]のボタンを選択します。

6. 静止画設定

(1)登録

本体パラメーター設定で接続している場合、LM-90HD/SDに対してHD、SDそれぞれ最大16個の静止画を登録する事ができます。

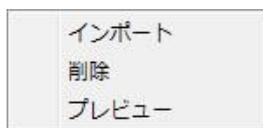


1)画面上にある静止画項目の1～16のボタンで登録先にしたい番号のボタンを押します。

2)ボタンを押すと以下のメニューが表示されるので、メニュー内の[インポート]を選択します。

対象の番号にすでに登録されている場合は、上書き確認がされます。

上書きして問題無い場合は「はい」を選択して登録の手続きを続けます。



3)登録したいイメージを一覧上から選び[開く]のボタンを選択します。

4)問題なく登録されると登録先のボタンが緑色になります。

登録可能なイメージファイルは以下のフォーマットになります。

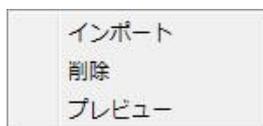
種類	備考
BMP	RGB/カラーマップ/モノクロ、アルファチャンネル、非圧縮/RLE圧縮、JPEG・PNG形式BMPは非対応
PICT	16・32ビット Direct Bit、2～8ビット Pixmap
TIFF	RGB/CMYK/YCbCr/モノクロ、アルファチャンネル、非圧縮/JPEG圧縮/Deflate圧縮、マルチページTIFFには非対応
TGA	RGB/カラーマップ/モノクロ、アルファチャンネル、Image Originビット対応、非圧縮/RLE圧縮
PSD	8ビットRGB、アルファチャンネル、レイヤー対応
PNG	RGB/カラーマップ/モノクロ、アルファチャンネル、非圧縮/Deflate圧縮
JPEG	RGB/YCbCr/GRAY、ベースライン/プログレッシブ、ロスレスJPEGは非対応

(2)削除※1

1)画面上にある静止画項目の1～16のボタンで削除したい番号のボタンを押します。

登録済みの番号のボタンは緑色になります。

2)ボタンを押すと以下のメニューが表示されるので、メニュー内の[削除]を選択します。



3)削除指定以下の最終確認が出来ますので問題無ければ[はい]を選択します。

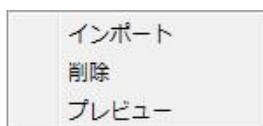
4)問題なく削除されると削除先のボタンがグレーになります。

(3)プレビュー※1

1)イメージを確認したい番号のボタン部分にマウスカーソルを持って行きます。

カーソルを持って行くとボタン上部にサムネイルが自動的に表示されます。

2)自動で出しているサムネイルをより大きく表示したい場合はボタンを押して表示されたメニュー内から[プレビュー]を選択します。



3)プレビュー画面が別ウィンドウで表示されます。

4)確認が出来たら[OK]ボタンを押してウィンドウを閉じます。

(4)移動

1)移動したい静止画1～16のボタン部分にマウスカーソルを持って行きドラッグ(マウスの左を押し続ける)します。

2)移動先の静止画1～16のボタン部分にマウスカーソルを持って行き、ドロップ(マウスの左を放す)します。

(5)コピー

1)移動したい静止画1～16のボタン部分にマウスカーソルを持って行きドラッグ(マウスの左を押し続ける)します。
素材をドラッグしたらキーボードの[Ctrl]キーを押します。(ドロップするまで押し続けます)

2)移動先の静止画1～16のボタン部分にマウスカーソルを持って行き、ドロップ(マウスの左を放す)します。

※1イメージが登録されていない(緑色のボタンでない)場合、メニューを選択することは出来ません。

7. 音声設定

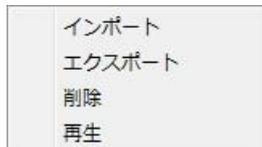
(1)登録

本体パラメーター設定で接続している場合、LM-90HD/SDに対してHD、SD合わせて最大10個の音声を登録することができます。

ただし、登録できる時間は10個のファイルを合わせて1分までです。



- 1)画面上にある音声項目の1～10のボタンで登録先にしたい番号のボタンを押します。
- 2)ボタンを押すと以下のメニューが表示されるので、メニュー内の[インポート]を選択します。
対象の番号にすでに登録されている場合は、上書き確認がされます。
上書きして問題無い場合は「はい」を選択して登録の手続きを続けます。



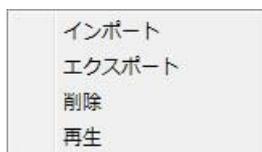
- 3)登録したい音声(WAVE)ファイルを一覧上から選び[開く]のボタンを選択します。
- 4)問題なく登録されると登録先のボタンが緑色になります。

登録可能な音声(WAV)ファイルは以下のフォーマットになります。

データサイズ	16ビット
サンプリング周波数	48kHz
チャンネル数	2チャンネル
フォーマットID	非圧縮ニアPCM (WAVE_FORMAT_PCM)
拡張子	WAV、wav

(2)取得※1

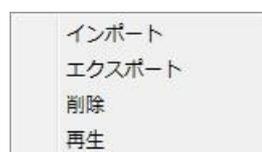
- 1)画面上にある音声項目の1～10のボタンで取得したい番号のボタンを押します。
登録済みの番号のボタンは緑色になります。
- 2)ボタンを押すと以下のメニューが表示されるので、メニュー内の[エクスポート]を選択します。



- 3)保存先のファイル名を設定し [保存]のボタンを選択します。
- 4)問題なく保存されると指定された場所にWAVEファイルが登録されます。

(3)削除※1

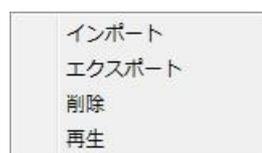
- 1)画面上にある音声項目の1～10のボタンで削除したい番号のボタンを押します。
登録済みの番号のボタンは緑色になります。
- 2)ボタンを押すと以下のメニューが表示されるので、メニュー内の[削除]を選択します。



- 3)削除指定以下の最終確認がでますので問題無ければ[はい]を選択します。
- 4)問題なく削除されると削除先のボタンがグレーになります。

(3)再生※1※2

- 1)画面上にある音声項目の1～10のボタンで音声を確認したい番号のボタンを押します。
- 2)ボタンを押すと以下のメニューが表示されるので、メニュー内の[再生]を選択します。



- 4)問題なく再生されるとPC上で対象の音声再生されます。

(4)移動

- 1)移動したい音声1～10のボタン部分にマウスカーソルを持って行きドラッグ(マウスの左を押し続ける)します。
- 2)移動先の音声1～10のボタン部分にマウスカーソルを持って行き、ドロップ(マウスの左を放す)します。

(5)コピー

- 1)移動したい音声1～10のボタン部分にマウスカーソルを持って行きドラッグ(マウスの左を押し続ける)します。
素材をドラッグしたらキーボードの[Ctrl]キーを押します。(ドロップするまで押し続けます)
- 2)移動先の音声1～10のボタン部分にマウスカーソルを持って行き、ドロップ(マウスの左を放す)します。

※1 音声登録されていない(緑色のボタンでない)場合、メニューを選択することは出来ません。

※2 再生はPC上で行う為、内容を確認するには実行したPCにサウンドを再生する環境が必要です。

8. LM-90-10本体情報インポート

ファイルに保存されているLM-90-10本体情報(LPD)ファイルを読み込んで本体にパラメーターを設定します。

- 1)メインメニューの[ファイル]-[インポート]を選択します。
- 2)読み込みたいLM-90-10本体情報ファイルを一覧上から選び[開く]のボタンを選択します。
- 3)問題なく読み込まれると本体に各設定情報が読み込まれます。

※LM-90-10本体情報ファイルに静止画及び音声情報がある場合、上書き登録されます。

ただし、ファイル上に登録情報が無い番号のデータは削除されずそのまま残ります。

※出力フォーマット及び本体ネットワーク設定(IPアドレス/サブネットマスク/ゲートウェイ/TCP通信ポート)は現在の設定値が維持されます。

9. LM-90-10本体情報エクスポート

現在接続されている本体情報をファイルに保存します。

- 1)本体に接続された状態でメインメニューの[ファイル]-[エクスポート]を選択します。
- 2)保存先の場所とファイル名を設定して[保存]のボタンを選択します。

※本体情報として静止画が登録されている場合、ファイル容量が大きくなります。保存先の空き容量には十分注意して下さい。

8. ショートカット

各種キー操作に対応する機能の一覧は以下のとおりです。

キー操作	対応する機能
ファイルメニュー関係	
Alt + I	テロップ情報データ、本体パラメーターを読み込み
Alt + E	選択されているテロップ情報、本体パラメーターを保存
Alt + A	ネットワーク - 接続
Alt + Q	ネットワーク - クイック接続
Alt + R	ネットワーク - 切断 ※本体接続時のみ有効
Alt + S	ネットワーク - 接続先設定
Alt + M	メンテナンス ※本体接続時のみ有効
本体操作関係	
Ctrl + F3	LINE BYPASS
Ctrl + 1	プリセット1
Ctrl + 2	プリセット2
Ctrl + 3	プリセット3
Ctrl + 4	プリセット4
Ctrl + 5	プリセット5
Ctrl + 6	プリセット6
Ctrl + 7	プリセット7
Ctrl + 8	プリセット8
Ctrl + 9	プリセット9
Ctrl + 0	プリセット10
Ctrl + F6	EXT SUPER
Ctrl + F7	PRESET ON
Ctrl + F8	DSK
Ctrl + F9	REMOTE/LOCAL

9. 工場出荷時設定

本アプリケーションの各設定のデフォルト値は以下の通りです

【メインメニュー - 表示】

項目	設定値	備考
ツールバーとドッキングウィンドウ - 標準	ON	
ステータスバー	ON	

【メインメニュー - 設定 - アプリケーション設定(本体パラメーター設定)】

項目	設定値	備考
ON AIR中のプリセットでもパラメーター変更を出来るようにする	OFF	

10. ユーザーリソース

本アプリケーションはアプリケーション画面の左上に表示しているロゴやプレビュー画面用のLINEイメージをユーザーが変更することが可能です。

●ユーザーリソースの変更方法

1. デスクトップにあるアプリケーションのショートカット上で[右メニュー] - [プロパティ]を選択します。
2. プロパティダイアログのショートカットタブ内にある[ファイルのある場所を開く]を選択します。
3. 上記で開いたフォルダー内に以下のイメージ画像及びファイル名に従ってTIFFファイルを保存します。

・アプリケーション画面の左上に表示しているロゴの場合

- ・画像は100×55以下の32bitTIFFファイルで保存します。(デフォルトのビデオトロンロゴは70×52です)
- ・ファイル名は1ライセンスか複数ライセンスかで変化する名称規則は以下の通りです。

a) 1ライセンスの場合

ファイル名は「LOGO.tif」になります。

b) 複数ライセンスの場合

- ・全てのアプリで同じロゴにする場合のファイル名は「LOGO.tif」になります。
- ・個別に変更する場合は「LOGO_<実行対象名>.tif」になります、
例) 実行対象名が「LMデモ」だった場合、ロゴファイルの名称は「LOGO_LMデモ.tif」になります。

・プレビュー画面用のLINEイメージの場合

- ・画像は480×270の24bitTIFFファイルでファイル名を「LINE.tif」にして保存します。

・ユーザーリソース変更の注意事項

- ・ユーザーリソースの変更時はアプリケーションが起動していない状態で行って下さい。
- ・ユーザーリソース以外のファイル名変更や削除を絶対に行わないで下さい。
- ・ロゴ用イメージは100×55以下のサイズにしてください。このサイズ以上のイメージが設定されていた場合、100×55に縮小されますが画面上のレイアウト等が崩れる場合があります。
- ・アプリケーションインストール時デフォルトのロゴとして「LOGO.tif」、ラインイメージとして「LINE.tif」が登録されます。
このためユーザーでリソース変更をしている場合はインストール前にイメージをバックアップしておきアプリケーションインストール後、再度ユーザーリソースを登録する必要があります。

※プレビュー画面用のLINEイメージはオプションのネットワークコントローラー(LM-90-10)のプレビュー画面のLINEイメージとして使用されます。

11. トラブルシューティング

トラブルが発生した場合の対処方法です。

現象 アプリケーションが起動しない。

原因 アプリケーションのインストールが正しく完了していない。

処置 アプリケーションのアンインストールを行い、再度CD-ROMからインストールを行ってください。

アプリケーションのインストールにはコンピュータの管理者の権限が必要です。

原因 プロテクトキー(HASP HL)が接続されていない。

処置 空いているUSBポートに付属のプロテクトキー(HASP HL)を接続して下さい。

プロテクトキーのドライバーをインストールしていない場合はドライバーのインストールを行ってください。

現象 LM-90HD/SD本体の機器と繋がらない。

原因 LANケーブルが正しく接続されていない。

処置 LANケーブル等の接続状態を確認し、各機器がネットワークに正常に接続されているか確認して下さい。

原因 本体の電源が切れている。

処置 本体の電源を入れ、再度接続をおこなってください。

原因 本体にLM-90-03が搭載されていない。

処置 LM-90-04LEからLM-90HD/SDを制御している場合はLM-90-03オプションが必要です。

LM-90-03が搭載されているかの確認方法はLM-90HD/SDの取扱説明書を確認して下さい。

原因 同一ネットワーク上でIPアドレスが重複して設定されてしまっている。

処置 ネットワーク管理者に問い合わせ、IPアドレスを適切な値へ変更してください。

原因 複数のLM-90HD/SDに接続していて同じ接続ポートを使用(設定)してしまっている。

処置 LM-90HD/SD本体の設定メニューから「INTERFACE」-「NETWORK」-「OWNER」と移動して

「TCP PORT」を選択します。この設定ポート番号を他の接続端末と重複しないように変更して下さい。

本体とアプリの通信には設定ポートと設定ポート+1が使用されています。この2つのポート番号が端末間で重複しないように設定して下さい。

原因 ファイアウォールの設定が正しく行われていない。

処置 Windowsファイアウォール、またはその他セキュリティソフトで「LM-90APP」が通信を許可されているか確認してください。

LM-90HD/SDアプリケーションはLM-90HD/SDとの通信にFTP及びTCP/IP通信を使用しています。TCP/IP通信で使用しているポート番号は本体のメニュー[INTERFACE] - [NETWORK] - [OWNER] - [TCP PORT]で設定されているポート番号及び[設定ポート番号 + 1]の番号が使用されています。

原因 ネットワークアダプターのステータスが「識別されていないネットワーク」になっている。

処置 ネットワーク管理者に問い合わせ、ファイアウォールの設定を適切な値へ変更するか、以下の設定を行って下さい。

[スタートメニュー] - [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [管理ツール]と選択していき[ローカル セキュリティ ポリシー]を選択します。

ローカル セキュリティ ポリシーのウィンドウが開いたら左側の一覧から[ネットワーク リスト マネージャーポリシー]を選択して右側の一覧から[識別されていないネットワーク]をダブルクリックします。

識別されていないネットワークのプロパティウィンドウが開いたら場所の種類を「プライベート」設定して[OK]ボタンを押します。

原因 複数のネットワークアダプターが接続されている場合、ネットワークアダプターの優先順位が正しく設定されていない。

処置 [スタートメニュー] - [コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [アダプターの設定の変更]と選択していきF10を押します。上部に表示されたファイルメニューの[詳細設定] - [詳細設定]を選択し表示されたダイアログにある[アダプターとバインド]タブで接続しているアダプターの接続の優先順位を一番上に設定して下さい。

現象 ショートカットキーの表示が本来と違う物が表示されている

原因 仕様変更等で途中からショーカットキーの割り振りが変更になった場合、リセットされるまで元々設定されている物が引き続き表示されている。

処置 アプリケーションメニューの[表示] - [ツールバーとドッキングウィンドウ] - [カスタマイズ]を選択します。表示されたカスタマイズダイアログのツールバータブを選択して[全てをリセット]を選択します。ツールバーなど独自に設定している場合は再度登録作業を行う。

お問い合わせは、当社までご連絡ください。

12. 索引

D		せ	
DSK パラメーター設定	28	静止画設定	50
L		接続	40
LM-90-10 本体情報インポート	54	接続先設定	41
LM-90-10 本体情報エクスポート	54	切断	41
あ		そ	
アプリケーション CD	3	ソフト起動	9
アプリケーション設定	44	た	
アンインストール	7	ダイアログ	12
い		端末検索登録	42
インストール	3	端末直接指定登録	43
インターフェースパラメーター設定	29	つ	
お		ツールバー	13
音声設定	52	て	
か		テロップ情報インポート	49
概説	1	テロップ情報エクスポート	49
き		テロップ登録	14
起動画面	9	テロップ登録メニュー	47
基本構成	2	と	
基本操作	37	登録端末変更	43
く		特長	1
クイック接続	40	トラブルシューティング	58
こ		ね	
工場出荷設定	56	ネットワーク設定	40
構成	2	は	
し		バージョン情報	36
ショートカット	55	ふ	
システム構成	2	ファイルパラメーター設定	33
システム条件	2	プリセットパラメーター設定	24
システムパラメーター設定	30	プレビュー	35
実行対象選択	37	ほ	
実行対象の起動	39	本体操作	34
実行対象の削除	38	本体パラメーター設定	23
実行対象の追加	37	め	
実行対象の編集	38	メッセージバー	13
状態表示	13	メニューバー	12
す		メインウィンドウ	10
ステータスバー	35	メンテナンス	45
		ゆ	
		ユーザーリソース	57

無断転写禁止



- 本書の著作権はビデオトロン株式会社に帰属します。
- 本書に含まれる文書および図版の流用を禁止します。

お問い合わせ

製品に関するお問い合わせは、下記サポートダイヤルにて承ります。

本社営業部/サポートセンター TEL **042-666-6311**

大阪営業所 TEL **06-6195-8741**

ビデオトロン株式会社 E-Mail: sales@videotron.co.jp

本 社 〒193-0835 東京都八王子市千人町 2-17-16

大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-8-8 花原第8ビル 5F

ビデオトロンWEBサイト

<http://www.videotron.co.jp/>

101444R12

本書の内容については、予告なしに変更する事がありますので予めご了承下さい。